HITACHI

FLORA 220W NS3

1

パソコンを準備する
ー電源を入れるまでー

マニュアルはよく読み、保管してください。
・製品を使用する前に、安全上の説明をよく読み、十分理解してください。
・このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

重要なお知らせ

・本書の内容の一部または全部を、無断で転載あるいは引用することを禁止します。
・本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
・本書の記述内容について万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
・本製品を運用した結果については前項にかかわらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

パソコンの信頼性について

ご購入いただきましたパソコンは、一般事務用を意図して設計・製作されています。生命、財産に著しく影響のある高信頼性を要求される用途への使用は避けてください。このような使用に対する万一の事故に対し、弊社は一切責任を負いません。
高信頼性を必要とする場合には、別システムが必要です。弊社営業部門にご相談ください。
一般事務用パソコンが不適当な、高信頼性を必要とする用途例
･化学プラント制御、医療機器制御、緊急連絡制御など

規制、対策などについて

●電波障害自主規制について
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。マニュアルに従って正しい取り扱いをしてください。

●漏洩電流自主規制について
この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会のパソコン業界基準 (PC-11-1988) に適合しています。

●電源の瞬時電圧低下対策について
落雷等による電源の瞬時電圧低下に対して不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします (社団法人 電子情報技術産業協会のパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)。

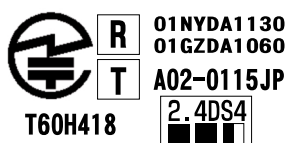
●ENERGYSTAR®について
当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。
『国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク (ロゴ) は参加国間で統一されています。』

●リサイクルに適した設計について
本装置は、「機器のリサイクルに適した設計」を行っています。
具体的には、次のとおりです。
・サブアッセンブリのシャーシへのネジ止め／はめ込み構造の採用
・ドライバーおよびペンチなど標準工具を使用して分解可能構造
・材料の表示によるプラスチック材料の分離容易性
・大型プラスチック材の材料集約
・機器の機能拡張のための拡張スロット装備、および標準インタフェースの採用により簡単にグレードアップが可能。

●PC グリーンラベル制度について

本製品は、JEITA「PC グリーンラベル制度」の審査基準（2001 年度版）を満たしています。詳細は、Web サイト http://www.jeita.or.jp をご覧ください。

●電波について (無線 LAN 内蔵モデル)
本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。次項に注意してください。
・本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことをご確認ください。
・万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更して、電波干渉をしないようにしてください。
・その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合などがおきたときは、弊社のお問い合わせ先にご連絡ください。

使用周波数帯域	2.4GHz
変調方式	DS-SS 方式
想定干渉距離	40m
周波数変更の可否	全体域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能

●輸出規制について
本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規制等外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。なお、この装置に付属する周辺機器やプレインストールされているソフトウェアも同じ扱いになります。

お使いになる前に

このたびは日立のシステム装置(以下、パソコン)をお買いあげいただき、まことにありがとうございます。次の内容と各マニュアルの内容をよくお読みになり、安全に正しくお使いください。

基本ソフトについて

このパソコンには、次の基本ソフト(OS(オーエス)またはオペレーティングシステム)がインストールされています。インストールされている以外のOSは保証外です。

・Microsoft® Windows® XP Professional Operating System(以下Windows XP または Windows)
・Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System(以下Windows 2000 または Windows)

また、Windows XP からのダウングレード代行サービスをご利用の場合、以下のOSがインストールされています。

・Microsoft® Windows® 98 Operating System(以下Windows 98 または Windows)

お問い合わせ先

●パソコンの操作や使いこなしについてのお問い合わせ
HITAC カスタマ・アンサ・センタにお問い合わせください。技術的なお問い合わせについて回答いたします。ただし、各言語によるユーザープログラムの技術支援は除きます。

●故障や保守サービスについてのお問い合わせ
トラブルが発生した場合は、まずマニュアルの第4章をご確認ください。故障と判断される場合は、FLORA インフォメーションセンターまたはご購入先にお問い合わせください。合わせて保守サービスのご案内をいたします。

●使用済み製品のお引き取りサービス(有償)についてのお問い合わせ
HITAC カスタマ・アンサ・センタまたは、E メール(kankyo@ebina.hitachi.co.jp)でお問い合わせください。

■HITAC カスタマ･アンサ･センタ　(＊電話での対応は国内に限らせていただきます。)
TEL: 0120-2580-12(フリーダイヤル)
受付時間:月曜日～金曜日 9:00～12:00、13:00～17:00(祝日を除く)

■FLORA インフォメーションセンター　(＊電話での対応は国内に限らせていただきます。)

●納入後1週間以内の初期故障の場合
TEL　:0120-5454-40(フリーダイヤル)
受付時間:9:00～22:00(平日)
:9:30～18:00(土・日・祝日)
＊1月1日は休ませていただきます

●左記以外の場合
TEL　:0120-8824-40(フリーダイヤル)
受付時間:9:30～22:00(平日)
:10:00～18:00(土・日・祝日)
＊1月1日は休ませていただきます

●Windows XP/Windows 2000 のお問い合わせについて

インストールおよび各種設定項目などのお問い合わせについては、有償となります。
詳細は、次で紹介しています。
ホームページアドレスhttp://www.hitachi.co.jp/soft/cssds/index.html
メールアドレスsolution-soft@itg.hitachi.co.jp

パソコンの最新技術情報

パソコンに関する最新情報をホームページに掲載しています。ぜひご参照ください。

参照

電子マニュアルからホームページを見る→ http://www.hitachi.co.jp/pc/ が表示されます。

URL は、2002 年 4 月 1 日現在のものです。

マニュアルの表記について

マニュアルの中で使用している、マークの意味を説明します。

マーク	説明
⚠	これは、安全注意シンボルです。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルのあとに続く安全に関するメッセージに従ってください。
⚠警告	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用います。
⚠注意	これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
注意	これは、装置の重大な損傷、または周囲の財物の損害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
重要	重要事項や使用上の制限事項を示します。
ヒント	パソコンを活用するためのヒントやアドバイスです。
参照	参照先を示します。
用語	パソコンの用語を解説します。

マニュアルの説明している画面およびイラストは一例です。機種によっては、異なる場合があります。説明の都合で、画面のアイコンやイラストのケーブルなど、一部省略している場合があります。

もくじ

パソコンを安全にお使いいただくために

■安全に関する共通的な注意について

次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

・ 操作は、このマニュアル内の指示、手順に従って行ってください。

・ 装置やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。

これを怠ると、けが、火災や装置の破損を引き起こすおそれがあります。

■シンボルについて

安全に関する注意事項は、次に示す見出しによって表示されます。これは安全注意シンボルと「警告」および「注意」という見出し語を組み合わせたものです。

これは、安全注意シンボルです。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルのあとに続く安全に関するメッセージに従ってください。

警告　これは、死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用います。

注意　これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。

注意　これは、装置の重大な損害、または周囲の財物の損害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。

【表記例1】感電注意

△の図記号は注意していただきたいことを示し、△の中に「感電注意」などの注意事項の絵が描かれています。

【表記例2】分解禁止

⃠の図記号は行ってはいけないことを示し、⃠の中に「分解禁止」などの禁止事項の絵が描かれています。

【表記例3】電源プラグをコンセントから抜け

●の図記号は行っていただきたいことを示し、●の中に「電源プラグをコンセントから抜け」などの強制事項の絵が描かれています。

■操作や動作は

マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行わないでください。装置について何か問題がある場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い求め先にご連絡ください。

■自分自身でもご注意を

装置やマニュアルに表示されている注意事項は、十分検討されたものです。それでも、予測を越えた事態が起こることが考えられます。操作に当たっては、指示に従うだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。

警告

異常な熱さ、煙、異常音、異臭

万一異常が発生した場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーパックも取り外してください。そのまま使用すると、感電、火災の原因になります。また、すぐに電源プラグを抜けるように、コンセントの周りには物を置かないでください。

修理・改造・分解

本書の指示に従って行うオプションなどの増設作業を除いては、自分で修理や改造・分解をしないでください。火災や感電、やけどの原因になります。

装置内部への異物の混入

通気孔などから内部にクリップや虫ピンなどの金属類や燃えやすい物などを入れないでください。そのまま使用すると、感電や火災の原因になります。

付属品の使用

AC アダプターやバッテリーパックなどは、必ず付属または指定のものをご使用ください。それ以外のものを使用すると、電圧、最大出力電流や＋－の極性が異なっていることがあるため、火災の原因になります。

参照 関連ページ→ P.21

カバーの取り外し

カバーを取り外すときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。パソコンの電源を切っても、一部の回路には、通電しているため、思わぬ接触など作業の不具合発生時に故障や劣化による火災の原因になります。
またバッテリーを取り付けているときは、バッテリーパックも取り外してください。

電源コードの扱い

電源コードは必ず付属のものを使用し、次のことに注意して取り扱ってください。取り扱いを誤ると、電源コードの銅線が露出したりショートや一部断線で、過熱して感電や火災の原因になります。

・ものを載せない
・引っ張らない
・押しつけない
・折り曲げない
・加工しない
・熱器具のそばで使わない
・束ねない

装置上に物を置く

花びん、植木鉢など水の入った容器や虫ピン、クリップなどの小さな金属物を置かないでください。内部に入った場合、そのまま使用すると、感電や発煙、発火の原因になります。

揮発性液体の近くでの使用

マニキュア、ペディキュアや除光液など揮発性の液体は、パソコンの近くで使わないでください。パソコンの中に入って引火すると火災の原因になります。

電源プラグの抜き差し

- 電源プラグをコンセントに差し込むとき、または抜くときは必ず電源プラグを持って行ってください。電源コード部分を引っ張るとコードの一部が断線してその部分が過熱し、火災の原因になります。
- 休暇や旅行などで長期間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。使用していないときも通電しているため、万一、部品破損時には火災の原因になります。
- 電源プラグをコンセントから抜き差しするときは、乾いた手で行ってください。濡れた手で行うと感電の原因になります。

電源プラグの接触不良やトラッキング

電源プラグは次のようにしないと、トラッキングの発生や接触不良で過熱し、火災の原因になります。

- 電源プラグは、根元までしっかり差し込んでください。
- 電源プラグは、ほこりや水滴が付着していないことを確認し、差し込んでください。付着している場合は、乾いた布などで拭き取ってから、差し込んでください。
- グラグラしないコンセントを使ってください。

落下などによる衝撃

落下させたり、ぶつけたりするなど過大な衝撃を与えないでください。内部に変形や劣化が生じ、そのまま使用すると、感電や火災の原因になります。

⚠警告

使用する電源

使用できる電源は交流 100 V です。それ以外の電圧では使用しないでください。電圧の大きさに従って内部が破損したり過熱・劣化して感電や火災の原因になります。

日本国以外の使用

本パソコンは日本国内専用です。電圧の違いや環境の違いにより国外で使用すると火災や感電の原因になります。また他国には独自の安全規格が定められており本パソコンは適合していません。

航空機内での使用

航空機内で使用するときは、航空会社の指示に従ってください。航空機の計測器などに悪影響をおよぼすことがあります。

バッテリーパックの保管

バッテリーパックを保管する場合は、パソコンから取り外し、端子に絶縁テープをはり、絶縁状態にしてください。絶縁状態にしないでバッテリーパックを保管すると、端子間どうしが接触ショートし過熱・破裂・発火などでけがをしたり、火災の原因になります。

バッテリーパックの液漏れ

・ 誤った取り扱いをすると、バッテリーパックから液漏れすることがあります。この液体には絶対に触れないでください。もし液体が手に着いたときは、流水で洗い流してください。万一、口に入ったときは水でゆすぎ、目に入ったときは清水で洗い流してから、医師の診断を受けてください。

バッテリーパックの持ち運び

バッテリーパックを持ち運ぶときはポリ袋などに入れてください。ほかの金属に触れ、端子間がショートし、過熱・発火・破裂などを引き起こし、火災やけがの原因になります。

バッテリーパックの充電

バッテリーパックを充電するときは必ず、このパソコンに入れて充電してください。ほかの方法では、電圧、充電時間などが異なる場合があり、破裂・発火などの原因になります。

バッテリーパックの取り扱い

バッテリーパックは次のことに注意してお取り扱いください。取り扱いを誤ると、液漏れ、過熱・破裂・発火し、火災やけがの原因になります。

・ 電池の＋－端子間をショートさせない。
・ 火中に投入したり、60 ℃以上に過熱しない。
・ 落下などによる強い衝撃を与えない。
・ 外装パックが著しく破損するような衝撃を与えない。
・ 濡れた布で金属部分を拭かない。
・ 水に濡らしたり、濡れた手で触れない。
・ 分解しない。
・ 火のそばや、炎天下、暖房器具の近くなどで使用、放置、充電しない。
・ 指定外のバッテリーパックを使用しない。
・ 液漏れしている場合には、素手で触れない。万一付着した場合は水で洗い流す。

タコ足配線

同じコンセントに多数の電源プラグを接続するタコ足配線はしないでください。コードやコンセントが過熱し、火災の原因になるとともに、電力使用量オーバーでブレーカーが落ち、ほかの機器にも影響を及ぼします。

参照 関連ページ→ P.21

湿気やほこりの多い場所での使用

浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所の近傍、湿気の多い地下室、水泳プールの近傍やほこりの多い場所では使用しないでください。電気絶縁の低下によって火災や感電の原因になります。

参照 関連ページ→ P.20

温度差のある場所への移動

移動する場所間で温度差が大きい場合は、表面や内部に結露することがあります。結露した状態で使用すると、発煙、火災や感電の原因となります。使用する場所で、数時間そのまま放置してからご使用ください。

⚠警告

周辺機器の増設や接続

周辺機器を増設・接続するときは、電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーパックが付いているときは、取り外してください。
また、マニュアルの説明に従い、マニュアルで使用できることが明記された周辺機器を使用してください。それ以外の周辺機器を使用すると、接続仕様の違いによる周辺機器やパソコンの故障から発煙、発火、火災や故障の原因になります。

通気孔

通気孔は内部の温度上昇を防ぐためのものです。物を置いたり立てかけたりして通気孔をふさがないでください。内部の温度が上昇し、発煙、発火や故障の原因になります。

電話線への接続と使用

雷が鳴っているときは、パソコンの使用および電話線の接続作業を中止してください。誘導雷で発生する高電圧によって感電するおそれがあります。

参照 関連ページ→ P.23

モデム部分への接触

内部に触れる必要があるときは、モジュラーケーブル (電話線) を抜いてください。呼び出し (ベル) 着信時および雷が鳴っているとき感電するおそれがあります。

AC アダプターの取り扱い

AC アダプターは、次のことに注意してお取り扱いください。火災、感電もしくは発熱によるやけどの原因になることがあります。

- 絶対に分解しないでください。
- 浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所の近傍、湿気の多い地下室、水泳プールの近傍やほこりの多い場所で使用しないでください。
- 水に濡らしたり、濡れた手で触れないでください。
- 熱がこもるような環境で使用したり、放置したりしないでください。
- 上に物を置かないでください。
- 必ず付属のコードセット (電源コード) を使ってください。

梱包用ポリ袋について

パソコンの梱包用エアーキャップなどのポリ袋は、お子様の手の届くところに置かないでください。かぶったりすると、窒息するおそれがあります。

電源スイッチについて

電源スイッチを OFF にしても、一部の回路には通電されています。休暇や旅行など長期間ご使用にならないときは、必ず AC アダプターの電源プラグを抜き、バッテリーパックを取り外してください。万一、部品破損時には火災の原因になります。

心臓ペースメーカーを装着時の使用

心臓ペースメーカーの装着部分から 22㎝ 以上離してご使用ください。電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

⚠注意

接続端子への接触

USB コネクターなどの接続端子に手や金属で触れたり、針金などの異物を挿入したりしないでください。また、金属片のある場所に置かないでください。発煙したり接触不良などにより故障の原因になります。

部品の追加・交換

電源を切った直後は、カバーや内部の部品が熱くなっています。約 30 分、時間をおいてから行ってください。やけどの原因になります。

参照 関連ページ→ P.38

金属など端面への接触

パソコンの移動、部品の追加などで金属やプラスチックなどの端面に触れる場合は、注意して触れてください。または、綿手袋を着用してください。けがをするおそれがあります。

参照 お問い合わせ先→ P.38

不安定な場所での使用

傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがをするおそれがあります。

参照 関連ページ→ P.20

目的以外の使用

踏み台やブックエンドなど、パソコン本来の目的以外に使用しないでください。壊れたり、倒れたりし、けがや故障の原因になります。

信号ケーブルについて

・ケーブルは足などに引っかけないように、配線してください。足をひっかけると、けがや接続機器の故障の原因になります。また、大切なデータが失われるおそれがあります。
・ケーブルの上に重量物を載せないでください。また、熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、接続機器などの故障の原因になります。

低温やけど

パソコン使用中は底面が熱くなります。ひざの上などに直接のせて使用しないでください。低温やけどのおそれがあります。また、装置の一部が熱くなる場合がありますが、装置動作に支障をきたすものではありません。

ヘッドホンやイヤホン

ヘッドホンやイヤホン使用時は、適度な音量でご使用ください。音量が大きすぎると難聴になるおそれがあります。

眼精疲労について

ディスプレイを見る作業を行うときは、作業場を 300 ～ 1000 ルクスの明るさにしてください。また、連続作業するときは、１時間に 10 分から 15 分程度の休息をとってください。長時間ディスプレイを見続けると、眼に疲労が蓄積されます。

参照 関連ページ→ P.20

ディスプレイ部の破損

ディスプレイ部はガラスで出来ています。ディスプレイ部が破損したとき、ガラスの破片には直接触れないでください。けがをするおそれがあります。

アルミ電解コンデンサーについて

このパソコンや AC アダプターに使用されているアルミ電解コンデンサーは有寿命部品です。設計寿命は、週日８時間使用で約５年です。寿命になると、電解液の漏れや枯渇が生じます。特に AC アダプターでの電解液の漏れは、発煙の原因になることがあります。これらの危険を避けるために、設計寿命を超えて使用する場合は、有寿命部品単位で交換してください。また、業務用など昼夜連続運転相当では５年より寿命は短くなります。

・参照 関連ページ→ P.62

注意

ディスプレイ部の開閉
開閉は、ディスプレイ部の中央上側を持ち行ってください。とくに閉じるときは、カチッとロックするまでゆっくりと倒してください。このようにしないと、ディスプレイ部の破損の原因になります。

バッテリーパックの廃棄
使用済みのバッテリーパックは、希少資源の有効利用のために、端子または接続コードにテープをはるなどの処置をしてから、充電式電池リサイクル協力店に持参していただくか、お問い合わせ先へ処分方法をお問い合わせください。
参照 お問い合わせ先→ P.3

パソコンの廃棄
- 事業者が廃棄する場合
  パソコンを廃棄するときには廃棄物管理表（マニュフェスト）の発行が義務づけられています。詳しくは、各都道府県産業廃棄物協会にお問い合わせください。廃棄物管理表は、（社）全国産業廃棄物協会に用意されています。
  弊社では、使用済み製品のお引き取りサービス（有償）を日立グループとして行っております。詳しくはお買い求め先にお問い合わせください。
- 個人が廃棄する場合
  パソコンを廃棄するときは、お買い求め先にご相談いただくか、地方自治体の条例または規則に従ってください。

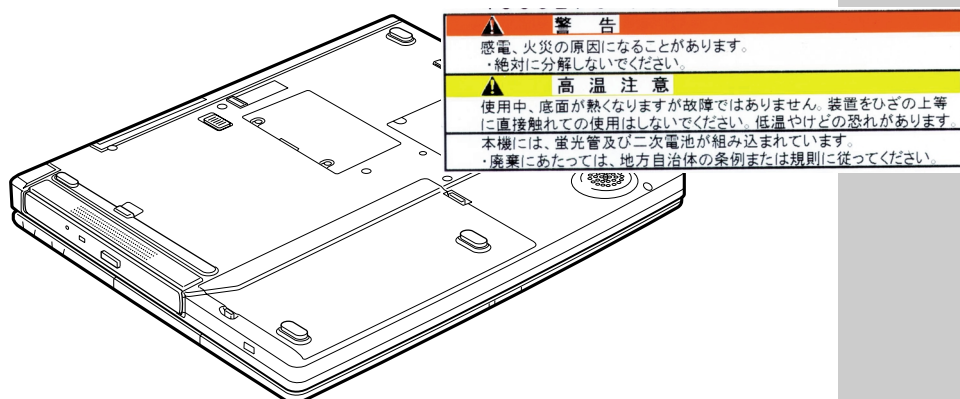
バックアップについて
ハードディスク装置のデータなどの重要な内容は必ず補助記憶装置にバックアップを取ってください。ハードディスク装置が壊れると、データなどがすべてなくなってしまいます。

電波障害について
ほかのエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、次のようにしてください。
- テレビやラジオなどからできるだけ離す
- テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える
- コンセントを別にする

モデムケーブルについて
モデムケーブルは、同梱のものを使って２線式のアナログ回線に接続してください。それ以外に接続すると、故障するおそれがあります。
参照 関連ページ→ P.23

LAN コネクタについて
LAN 以外のケーブルを接続しないでください。故障するおそれがあります。

■警告ラベル

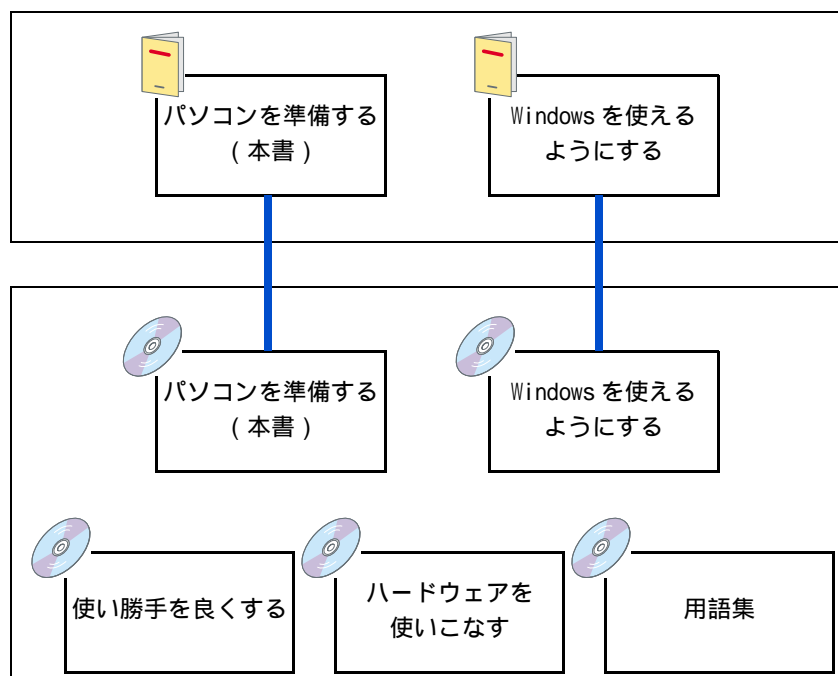
●パソコン

●AC アダプター

●バッテリー 1

●バッテリー 2（オプション）

付属マニュアルの使い方

主なマニュアル

このパソコンには、紙のマニュアルと、画面上で読む電子マニュアルがあります。

紙のマニュアル

パソコンを接続してから、電源を入れてパソコンを動かすまでを説明しています。
また、重大なトラブルへの対処方法やパソコンを購入時の状態に戻す方法などが含まれています。

電子マニュアル

紙マニュアルと同じ内容を画面で読むことができます。
また、周辺機器の取り付け方やパソコンの使いこなし方などが含まれています。

その他のマニュアル

その他の紙マニュアル

OS 別に次のいずれかの紙マニュアルを付属しています。Windows に関する基本的な機能について説明しています。必要に応じてお読みください。

- **クイックスタートガイド Microsoft® Windows® 2000 Professional**
- **ファーストステップガイド Microsoft® Windows® XP Professional**

その他の電子マニュアル

次の電子マニュアルを付属しています。必要に応じてお読みください。

●内蔵モデム取扱説明書

●パソコンヒント集

●トラブル対応集

●BIOS 一覧

●インタフェース仕様一覧

ヒント

★『トラブル対応集』、『BIOS 一覧』、『インタフェース仕様一覧』は、『活用百科』CD の、次のフォルダーからご参照ください。

● common フォルダー
・トラブル対応集

● other フォルダー
・BIOS 一覧
・インタフェース仕様一覧

作業の流れをつかんでおこう

はじめてパソコンを使うときは

購入後、箱を開けてからはじめてパソコンの電源を入れるまでには、いくつかのステップがあります。

同梱品を確認する

付属の同梱品一覧

箱の中に入っている同梱品がすべてそろっていることを確認します。

接続して電源を入れる

本書の「1章　パソコンを接続しよう」

パソコンを正しく使うために、パソコンを使うときに適した場所や姿勢を知っておきましょう。そのあとパソコンを動作させるために接続して電源を入れます。

使用許諾契約に同意する

『Windowsを使えるようにする』の1章の「はじめて電源を入れるときは」

電源を入れて、Windowsを使えるようにします。

電源を入れ直す

『Windowsを使えるようにする』の1章の「電源を入れ直す」

電源を入れ直して、デスクトップ画面が表示されるか確認します。Windowsの操作はデスクトップ画面から始めます。

これだけは覚えておこう

本書の「2章　各部の名前と働きを知ろう」

パソコン各部の名前と、ディスクドライブの使い方を読んでおきましょう。

『Windowsを使えるようにする』の「2章　もっと詳しく知るために」

パソコンの使い方がわからないときは、電子マニュアルやWindowsのヘルプをお読みください。ここでは、電子マニュアルとヘルプの使い方を説明しています。

トラブルが発生したときは

■本書の「4 章　トラブルを解決するには」
電源が入らない、ディスプレイに表示されない、マウスが動かないなど、電子マニュアルを読めない状況での対処方法を説明しています。

■電子マニュアル『使い勝手を良くする』の 5 章「パソコン Q&A 」
その他のトラブルの対処方法を説明しています。

■『Windows を使えるようにする』の 3 章「ご購入時の状態に戻すには」
パソコンを購入時の状態に戻す方法を説明しています。

パソコンに何かを取り付けるときは

■電子マニュアル『ハードウェアを使いこなす』の 2 章「周辺機器を接続する」
パソコンの外部に周辺機器を取り付ける方法を説明しています。

■本書の 3 章「パソコンを拡張するときは」
パソコンにメモリーボードなどを取り付ける方法を説明しています。

その他の目的のときは

電子マニュアルでは、次の内容も説明しています。詳しくは、それぞれの電子マニュアルをご覧ください。

■電子マニュアル『使い勝手を良くする』
1 章「使い勝手を調節する」、2 章「消費電力を節約する」、3 章「付属ソフトウェアの使い方」、4 章「追加セットアップ」

■電子マニュアル『ハードウェアを使いこなす』
1 章「バッテリーを使う」、3 章「日常のお手入れ」、4 章「技術情報」

■電子マニュアル『用語集』
「各部の名称」「キーボード」「数字・英字」「五十音」

1 章

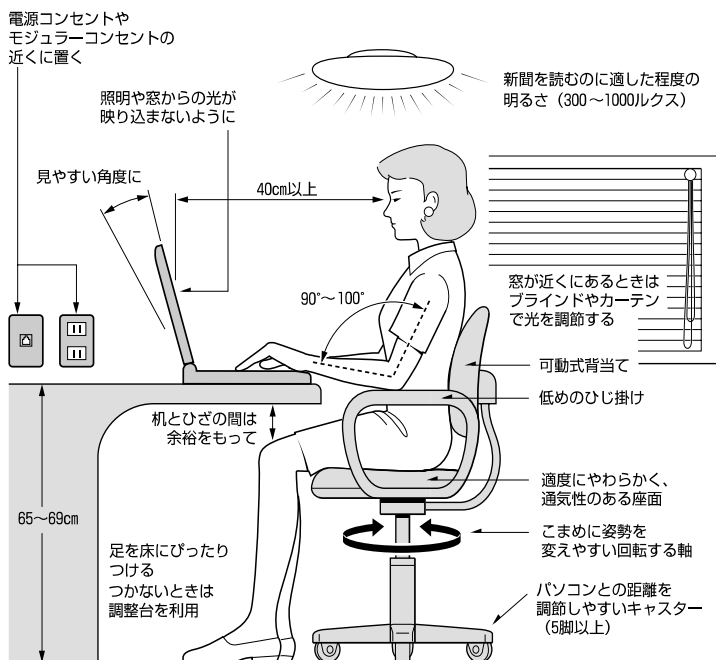
パソコンを接続しよう

この章では、パソコンの設置、接続方法、電源の入れ方について説明します。

接続しよう

まず『同梱品チェックリスト』ですべての付属品がそろっていることを確認します。
次に、パソコンの置き場所を決めて、接続しましょう。

置き場所や姿勢について

パソコンを使う場所によっては、パソコンに思わぬトラブルを起こす可能性があります。パソコンを正しく使うために、パソコンを使うときに適した場所と姿勢について知っておきましょう。

参照：日本人間工学会 ノートパソコン利用の人間工学ガイドライン（1998 年 労働科学研究所発行）

- ・パソコンのディスプレイは、体の正面に設置し、見やすい角度に調節する。
- ・ディスプレイの照度、明るさと周囲の照明を適度に調節し、ディスプレイの反射を抑える。
- ・明るさやコントラストなど見やすいように調節する。
- ・キーボードやマウスを使うときは、手首とひじは水平になるような位置を保つ。
- ・パソコンの作業時間は、１日に最大６時間を目安とし、１時間ごとに 10 ～ 15 分の休息をとる。
- ・キーボードは本などで使いやすい角度に調節する。
- ・周辺機器を接続しても余裕のある、十分な作業空間を確保する。
- ・不自然な姿勢を避け、ときどき姿勢を変える。

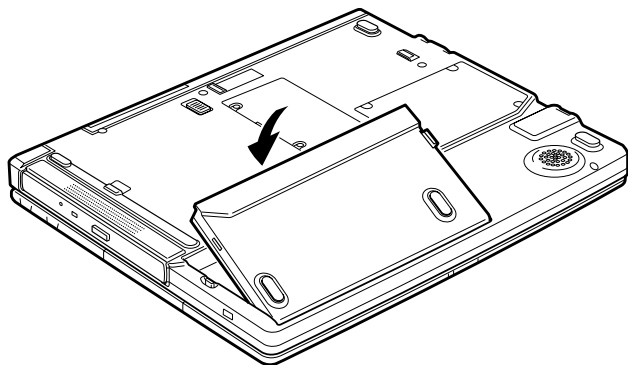
⚠警告

◎ **浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所の近傍、湿気の多い地下室、水泳プールの近傍やほこりの多い場所では使用しないでください。電気絶縁の低下によって火災や感電の原因になります。**

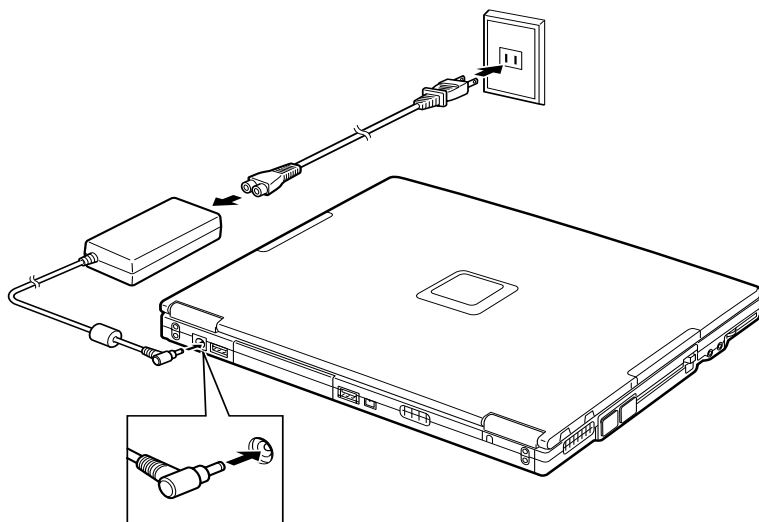
⚠注意

◎ **傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがをするおそれがあります。**

パソコンを接続しよう

1 パソコンを裏返し、バッテリー 1 を「カチッ」と音がするまで差し込む。

2 AC アダプターを、パソコンの電源コネクターに差し込む。

3 AC コードを、AC アダプターに差し込む。

4 AC コードのプラグを、コンセントに差し込む。

ヒント

★ パソコンは、バッテリー 1 を取り付けなくても AC アダプターだけで動かせます。

★ バッテリー 2 を取り付けることもできます。

参照

バッテリーパックの使い方とバッテリー 2 の取り付け方は→電子マニュアル『ハードウェアを使いこなす』の 1 章「バッテリーを使う」

参照

バッテリーパックの取り外し方は→3 章の「メモリーボードを取り付ける」(P.38)

⚠警告

◎ AC アダプター、バッテリーパックは同梱のものを使用してください。同梱のもの以外を使用すると、電圧、最大出力電流、および＋－の極性が異なっていることがあるため、火災の原因になります。

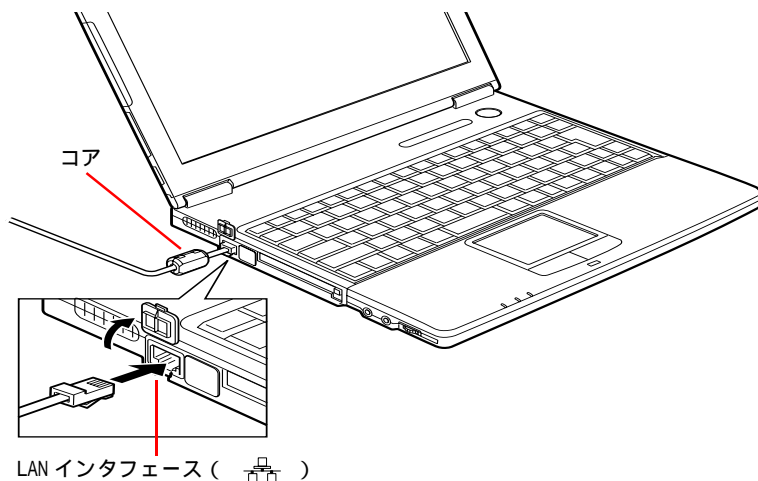
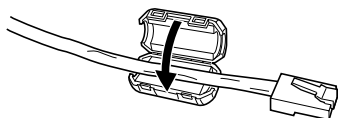
⚠警告

◎ 同じコンセントに多数の機器を接続しないでください。コードやコンセントが過熱し、火災

LAN に接続する方法

パソコンを LAN に接続する場合にお読みください。
ただし、Windows XP モデルや Windows 2000 モデルの場合は、『Windows を使えるようにする』の 1 章の操作を終えるまで、LAN ケーブルを接続しないでください。

1 パソコン側面にある LAN インタフェースコネクター (品) のフタを開け、LAN ケーブル (別売) を「カチッ」と音がするまで差し込む。

LAN ケーブルをつながないときは、フタを閉じておいてください。

添付のコアを ＬＡＮ ケーブルに取り付けてお使いください。

LAN に接続するには、ほかにも必要な手続きが残っています。パソコンに電源を入れたあと、Windows のヘルプをご参照ください。

ヒント

★ コネクターは、正しい向き、正しい角度で差し込んで接続してください。コネクターがきちんと差し込まれていないと、動作しなかったり、誤動作したりします。

重要

◎ LAN コネクタには LAN ケーブルを接続してください。LAN ケーブル以外 (ISDN など) を接続すると故障するおそれがあります。

◎ LAN ケーブルには脱落防止のラッチが付いています。LAN ケーブルを取り外すときは、ラッチを押さえながら LAN インタフェースコネクターから引き抜いてください。ラッチを押さえずに無理に引き抜くと、LAN ケーブルが断線したり、LAN インタフェースコネクターを破損するなどのおそれがあります。

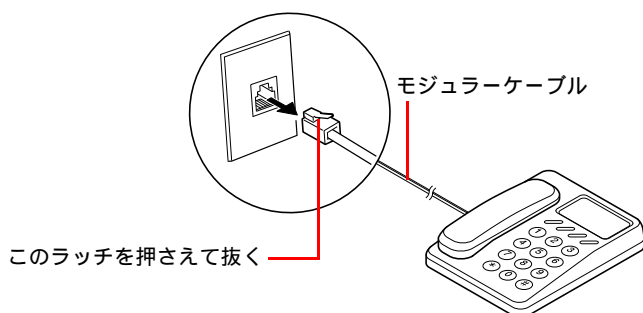
◎ NetWare サーバーのフォルダーまたはファイル名に半角カタカナを使用しないでください。Windows からそのフォルダーやファイルにアクセスできない場合があります。

◎ 内蔵 LAN と上位プロトコルとの動作確認は、「Microsoft TCP/IP プロトコル」、「Microsoft NetBEUI プロトコル」、「Microsoft IPX/SPX 互換プロトコル」で行っています。その他のプロトコルを使用する場合は、あらかじめ接続、動作の確認を行ってください。

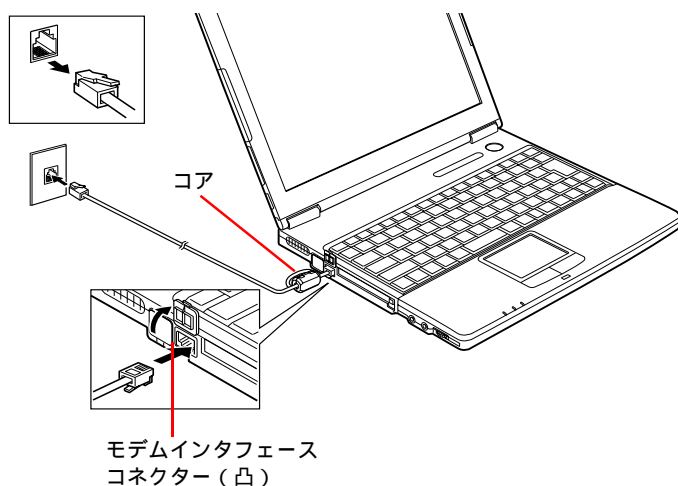
◎ 内蔵 LAN を BIOS メニューにより「Disabled」にする場合、LAN ケーブルを本体に接続しないでご使用ください。

モデムでインターネットに接続する方は

モデムでインターネットに接続する場合にお読みください。

1 **お使いの電話機につながっているモジュラーケーブルを、モジュラーコンセントから抜く。**

2 **パソコン側面にあるモデムインタフェースコネクター（凸）のフタを開け、同梱のモデムケーブルのコアの付いている方のコネクターを「カチッ」と音がするまで差し込む。**

モデムケーブルをつながないときは、フタを閉じておいてください。

3 **モデムケーブルの反対側を、モジュラーコンセントに「カチッ」と音がするまで差し込む。**

インターネットを始めるためには、ほかにも必要な手続きが残っています。パソコンの電源を入れたあと、インターネット接続ウィザードで設定してください。

ヒント

★ 接続する前に、お使いになっている電話機の種類をご確認ください。お使いになっている電話機が親子電話やビジネスホンの場合、接続しても正常にインターネットを始めることができません。

★ モジュラーコンセントの形状がイラストのようになっていない場合は、モジュラーコンセントを変更する必要があります。詳しくは NTT にご相談ください。

★ モジュラーコンセントにモデムケーブルとパソコンを接続しているときは、電話機を使うことができません。電話機を使うときは、モジュラーコンセントからモデムケーブルとパソコンを取り外し、電話機を取り付ける必要があります。

重 要

◎ モデムケーブルは、必ずモデムコネクターに接続してください。誤って LAN コネクターに接続すると故障するおそれがあります。あらかじめ、マークなどを確認して接続してください。

◎ モジュラーケーブルには脱落防止のラッチが付いています。モジュラーケーブルを取り外すときは、ラッチを押さえながらモジュラーコンセントから引き抜いてください。ラッチを押さえずに無理に引き抜くと、モジュラーケーブルが断線したり、モジュラーコンセントを破損するなどのおそれがあります。

⚠警告

◎ 雷が鳴っているときは、パソコンの使用、アンテナ線の接続および電話線への接続作業を中止してください。誘導雷で発生する高電圧によって感電するおそれがあります。

⚠注意

◎ モデムケーブルは、同梱のものを使って２線式のアナログ回線に接続してください。それ以外に接続すると、故障するおそれがあります。

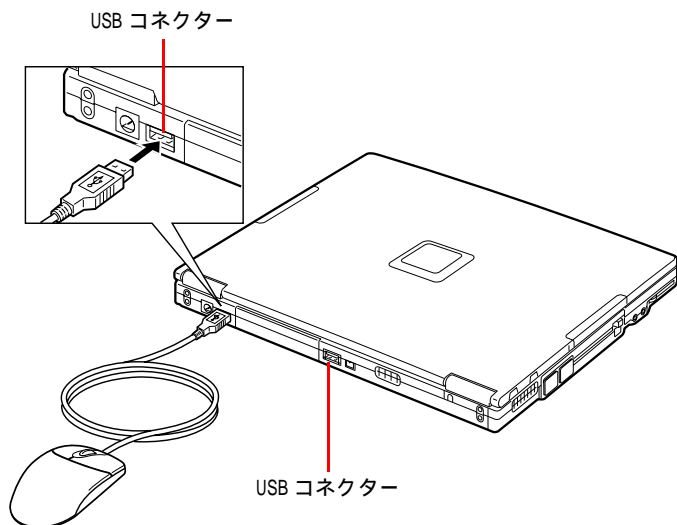
マウスで操作したい方は

マウスを使って操作したい方は、マウスをパソコンに接続しましょう。

1 マウスのコネクターを、パソコンの USB コネクターのどちらかに差し込む。

ほかの周辺機器を使うときは

ほかの周辺機器を使うときは、電子マニュアルの『ハードウェアを使いこなす』を参照して接続してください。設定などの詳しい説明は、周辺機器のマニュアルをご参照ください。

●プリンターの接続について	→『ハードウェアを使いこなす』2章の「プリンターを接続する」
●ヘッドホン、マイクの接続について	→『ハードウェアを使いこなす』2章の「ヘッドホン、マイクを接続する」
●USB に対応した機器の接続について	→『ハードウェアを使いこなす』2章の「USB 機器を接続する」
●上記以外の周辺機器の接続について	→『ハードウェアを使いこなす』2章の「その他の周辺機器を接続する」

ヒント

★ パソコンを操作するときは、ポインティングパッドを使う方法と、マウスを使う方法の2通りがあります。パソコンを置く位置に、パソコンの大きさの3倍以上の広いスペースがあるときは、マウスを使って操作すると便利です。

★ Windows 98 の場合、マウスのホイール機能を使うには、ドライバーを変更する必要があります。

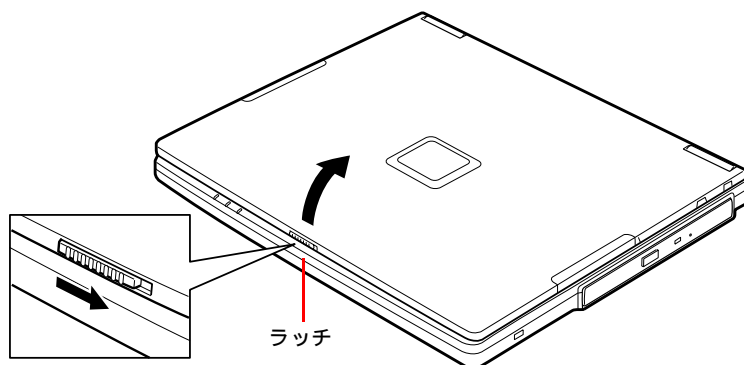
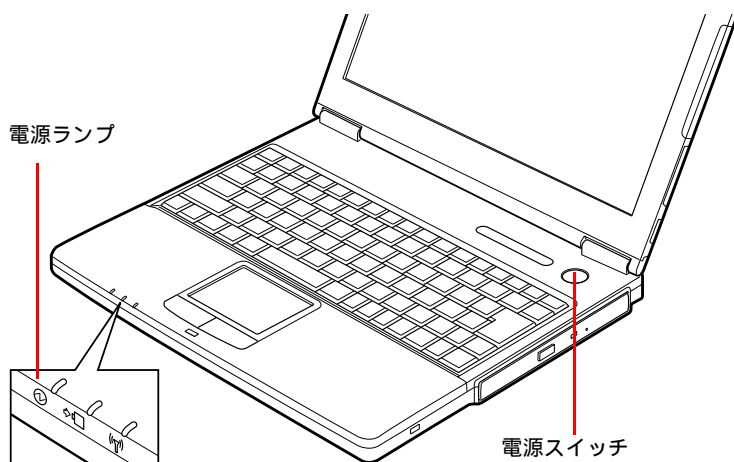
参照

ドライバーの変更方法→電子マニュアル『使い勝手を良くする』3 章の「付属ソフトウェアの使い方」「ホイールマウスドライバー」

マウスの使い方→電子マニュアル『ハードウェアを使いこなす』2章の「マウス、テンキーボード」

電源を入れよう

ここまででパソコンの電源を入れる準備ができました。
次に、電源を入れて Windows を使えるようにします。

1 ラッチを矢印の方向にスライドさせて、液晶ディスプレイを開く。

2 電源スイッチを押す。

▼電源ランプが点灯し、ディスプレイに画面が表示される。

はじめて電源を入れたときは、Windows の設定が必要です、引き続き、『Windows を使えるようにする』の 1 章「パソコンを始めよう」をお読みください。

ヒント

★ 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてからパソコンの電源を入れてください。また、電源を切るときには、パソコンの電源を切ってから周辺機器の電源を切ってください。

ヒント

★ 電源の切り方は、『Windows を使えるようにする』1 章の「電源を入れ直す」をご参照ください。

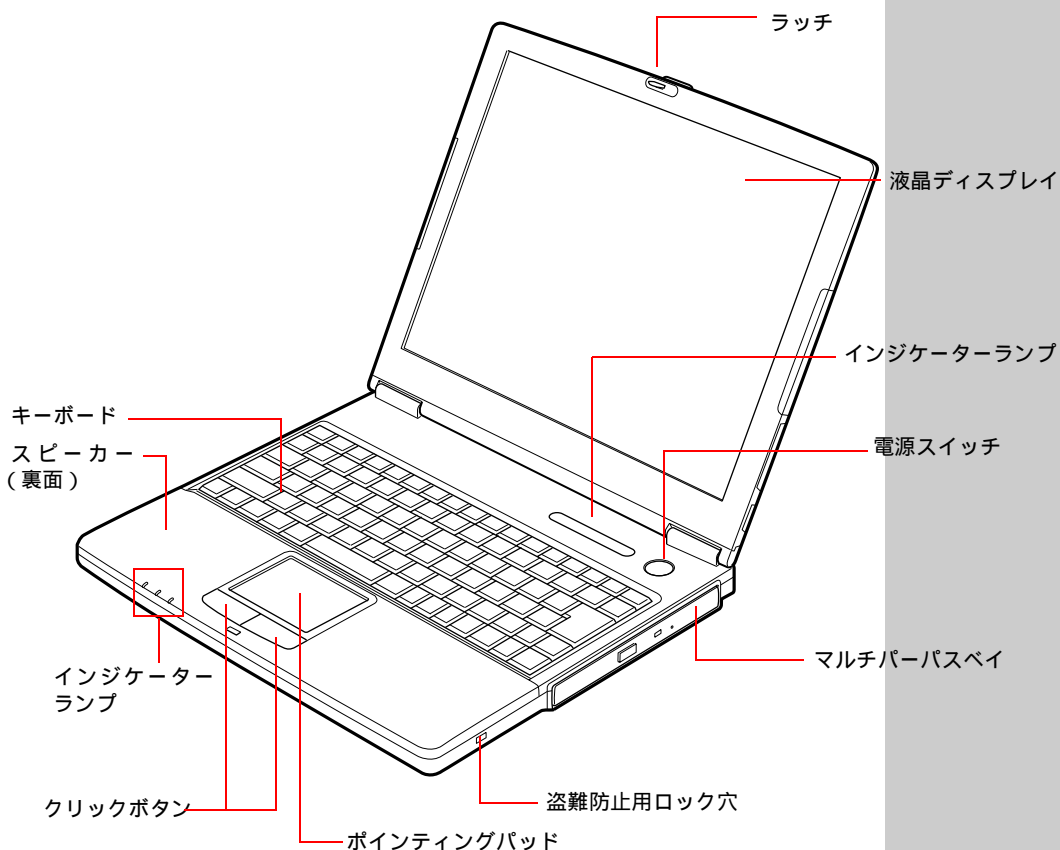
2 章

各部の名前と働きを知ろう

この章では、パソコン各部の名前と、ディスクドライブの使い方について説明します。

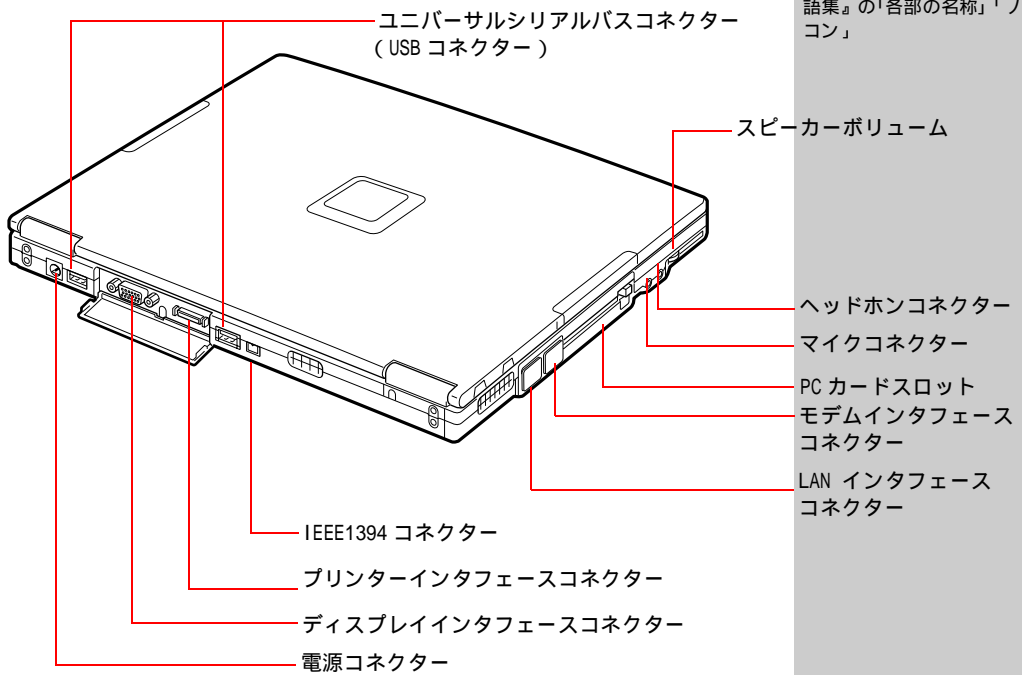
パソコンと付属品の名前を知ろう

パソコンの各部の名称を覚えてください。

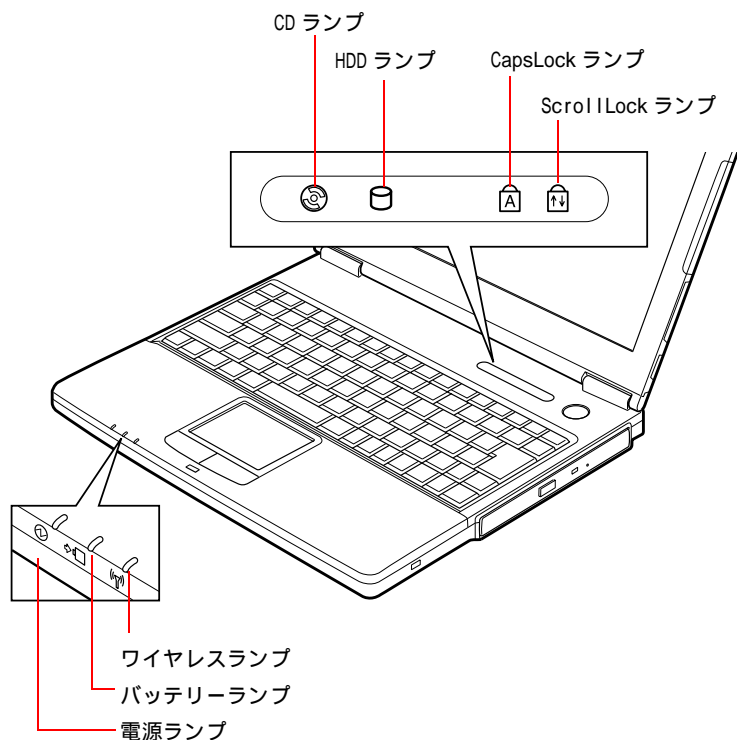
参照

各部の説明は→電子マニュアル『用語集』の「各部の名称」「ノートパソコン」

パソコン正面

パソコン背面

参照

各部の説明は→電子マニュアル『用語集』の「各部の名称」「ノートパソコン」

インジケーターランプの見方

それぞれのランプの表示によって、パソコンの状態がわかります。

電源ランプ

電源ランプの状態で、パソコンの状態がわかります。

電源ランプ	パソコンの状態
点灯 (緑)	電源が入っている
点滅 (緑)	スタンバイ状態になっている
消灯	電源を切っている

バッテリーランプ

バッテリーランプの状態で、バッテリーパックの状態がわかります。

バッテリーランプ	バッテリーパックの状態
消灯	満充電でなく、充電もおこなっていない
点灯 (橙)	バッテリ 1 またはバッテリ 2 の充電中
点灯 (緑)	満充電（残容量約 90 ～ 100%）
点滅 (赤)	バッテリーパックの残容量が少なくなっている

重要

◎ バッテリーランプが橙色に点滅した場合は、バッテリパックと AC アダプターを一旦外し、再度取り付けて充電してください。

◎ 残容量が少なくなっても動作状態によっては、赤色 LED の点滅をしない場合があります。

ワイヤレスランプ

点灯時、無線 LAN が使えます。消灯時は、使えません。
[Fn]+[F1] キ―で無線 LAN の電波を ON/OFF できます。

電波の ON/OFF について
航空機内などでは電波を停止する必要があります。
[Fn]+[F1] キ―で電波を停止することができます。再び電波の送信を開始する場合は、再度 [Fn]+[F1] キ―を押してください。

重要

◎ 購入時の選択により、異なります。

◎ 内蔵無線 LAN のみのサポートのため、無線 LAN カードでは使えません。

CD ランプ

マルチパーパスベイのドライブ（CD-ROM など）がデータの読み書きをしているときに点灯します。

重要

◎ CD ランプや HDD ランプが点灯中は、電源を切ったり、CD-ROM などのディスクの出し入れをしないでください。ドライブやディスクが壊れることがあります。

HDD ランプ

ハードディスクドライブ（ 以下、HDD）がデータの読み書きをしているときに点灯します。

CapsLock ランプ

点灯時、大文字のアルファベットが入力できます。消灯時は、小文字が入力できます。

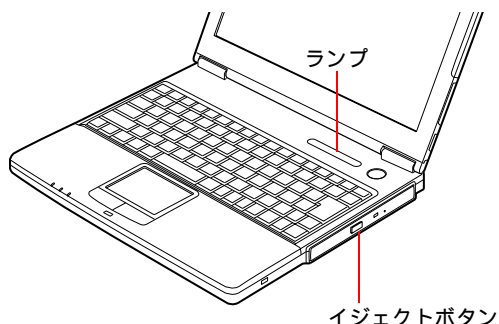
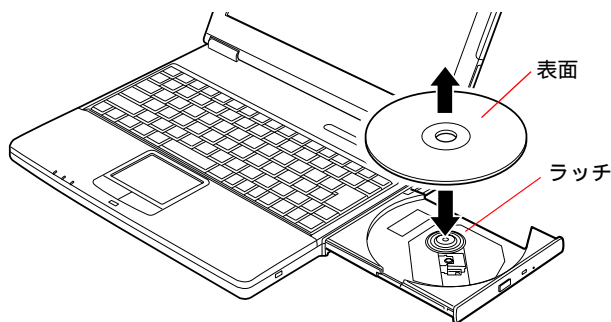
ScrollLock ランプ

点灯時、アプリケーションによっては画面がスクロールしなくなります。

ディスクを使おう

ここでは、CD-ROM、CD-R/RW、DVD-ROM(以下、ディスク)と、それらを入れるドライブの使い方について説明します。また、フロッピーディスク(以下、FD)についても説明します。購入時に選択された仕様によって、パソコンに内蔵するドライブと使用できるディスクは異なります。

ディスクの入れ方／取り出し方

1 CD ランプが点灯していないことを確認して、イジェクトボタンを押し、トレーを引き出す。

2 ディスクの表側(ラベルが書かれている面)を上に向け、ラッチが「カチッ」と音がするまで入れる。または、取り出す。

3 「カチッ」とロックするまで、トレーを押して閉める。

▼自動でディスクを読む設定になっているときは、ディスクを入れると再生が始まる。

ヒント

★ パソコンの電源が入っていないと、トレーは出てきません。

重要

◎ ランプ点灯中はトレーを出さないでください。ドライブまたはディスクが壊れることがあります。

◎ トレーを出し入れするときに、トレーを無理に引き出したり押し込んだりしないでください。ドライブが壊れることがあります。また、ディスクをセットしたり取り出すとき以外はトレーを引き出さないでください。

重要

◎ 割れたり変形したディスクをドライブに入れないでください。故障の原因になります。

◎ ディスクのセンター穴をラッチにはめずにトレーを閉めると、ディスクがトレー口に入って取れなくなることがあります。

ヒント

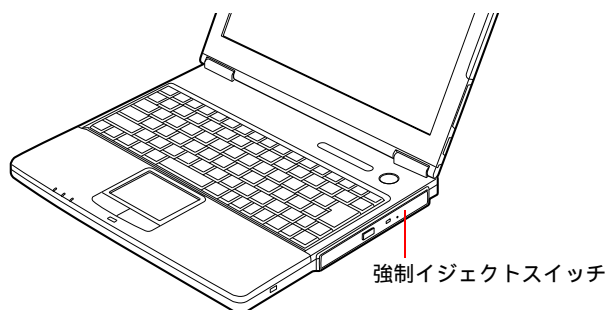
★ ディスクに自動立ち上げのファイルがないときは、ディスクの再生が自動になりません。

参照

自動でディスクを読む設定について
→電子マニュアル『使い勝手を良くする』1章の「CD/DVD ドライブを設定する」

ディスクの強制取り出し

ドライブが壊れ、イジェクトボタンを押してもトレーが開かないとき、細いピンなどを差し込んでドライブを開けることができます。

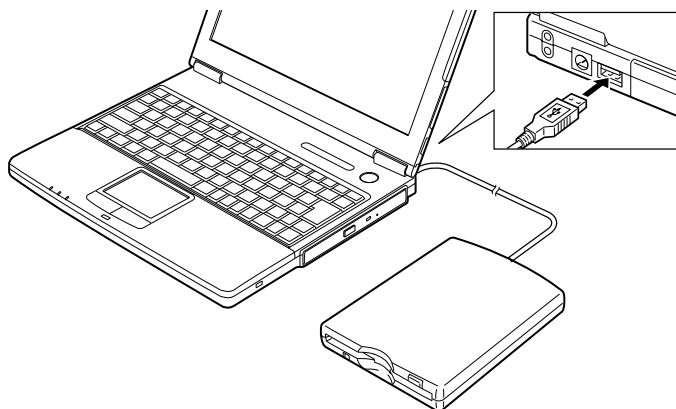
1 細いピンなどで、強制イジェクトスイッチを押す。

◎ 通常は、強制イジェクトスイッチは使わないでください。ただし、内蔵ドライブが壊れ、イジェクトボタンを押してもトレーが出ないときは、強制イジェクトスイッチに細いピンなどを差し込んで取り出してください。

フロッピーディスクの入れ方／取り出し方

フロッピーディスクドライブを接続する

ここでは、外付けフロッピーディスクドライブ (以下、FDD) の接続方法について説明します。

1 パソコン背面の USB コネクターのどちらかに、FDD に付属の USB ケーブルを接続する。

2 USB ケーブルのもう一方のコネクターを FDD に接続する。

重要

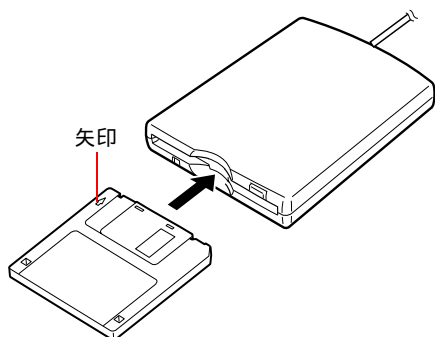
◎ コネクターには上下の向きがあります。コネクターの形を確認して取り付けてください。誤った向きで無理に押し込むと、コネクター破損の原因となります。

◎ FDD は上下を逆にしないでください。

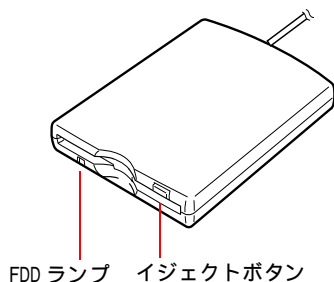
◎ FDD は AC アダプターから 30cm 以上離してご使用ください。

◎ FDD を取り外すときは、FDD に FD が入っていないことを確認してください。FD が壊れることがあります。

フロッピーディスクを入れる

1 **表側(ラベルをはる面)を上に向け、矢印を FDD)に向け、「カチッ」と音がするまで押し込む。**

> **重要**
>
> ◎ FD を FDD に入れたまま、パソコンの電源を入れないでください。正常に Windows が立ち上がりません。Windows が立ち上がってから FD を入れてください。

フロッピーディスクを取り出す

1 **FDD ランプが点灯していないことを確認して、イジェクトボタンを押す。**

> **重要**
>
> ◎ FDD ランプの点灯、点滅中に FD を出し入れすると、FDD または FD が壊れることがあります。
>
> ◎ パソコンの電源を切るときは、FD を取り出してからにしてください。FD を入れたまま電源を切ると、FD が壊れることがあります。また、FD を入れたまま、電源を入れると、パソコンが立ち上がらないことがあります。

2 **FD が出てくるので、FDD から取り出す。**

FD の種類

このパソコンで次の FD が読み書きできます。
・2DD：720KB フォーマット
・2HD：1.44MB フォーマット／1.25MB フォーマット

フォーマットする

1 **FD を FDD に入れる。**

2 **[マイコンピュータ] の「3.5 インチ FD(A:) 」を右クリックする。**

3 **メニューから [フォーマット] を選択する。**

4 **フォーマットする FD に合せて、[容量] に「1.44MB 」または「720KB 」を選択する。**

・Windows 98 の場合は、[フォーマットの種類] に「通常のフォーマット」を選択する。
・Windows XP、Windows 2000 の場合は、[フォーマットオプション] の [クイックフォーマット] をチェックしない。
・オプション項目があるときは、必要に応じて設定する。

5 **[開始] ボタンをクリックする。**

▼フォーマットが開始される。終了すると [フォーマットが完了しました。] と表示される。

6 **[OK][閉じる] の順にボタンをクリックする。**

重要

◎ 1.44MB の FD を 1.25MB の容量にフォーマット (初期化) できません。

◎ 1.25MB でフォーマットされている FD を 1.44MB でフォーマットし直しても、正常に使用できないことがあります。

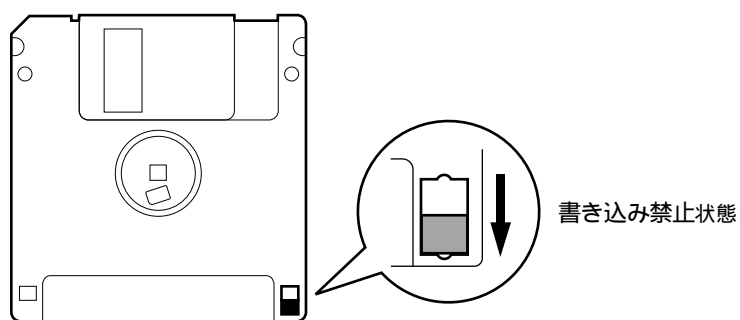
◎ 2DD の FD をフォーマットしたあと、すぐに FD に読み書きすると読み書きのエラーが発生することがあります。一度 FD をドライブから取り出し、入れ直してください。

◎ Windows XP の場合、2DD(720KB) のフォーマットはできません。

書き込みを禁止する

ここでは、FD への書き込みを禁止する方法を説明します。大切なデータを誤って消してしまうことがなくなります。

1 FD の裏側のライトプロテクトノッチを矢印の向きにスライドする。

▼書き込みが禁止される。

3 章

パソコンを拡張するときは

この章では、パソコンのメモリーボードを追加する方法について説明します。

メモリーボードを取り付ける

メモリーボードを増設すると、メモリー容量を増やすことができます。最大 384MB まで増設できます。

参照

メモリーボード以外の周辺機器の接続→電子マニュアル『ハードウェアを使いこなす』の 2 章「周辺機器を接続する」

増設時のお願い

⚠注意 **■パソコン内が冷えるまで待つ**
電源を切った直後は、カバーや内部の部品が熱くなっています。約 30 分、時間をおいてから行ってください。やけどの原因になります。

⚠注意 **■綿手袋を着用する**
パソコン内部に触れたり、メモリーボードに触れるときは綿手袋を着用してください。素手で触れると故障の原因になります。また、手にけがをおうおそれがあります。

注意 **■体から静電気を逃がしておく**
パソコンやメモリーボードは精密機器です。わずかな静電気も故障の原因になります。あらかじめ金属に触れるなどして、体から静電気を逃がしておいてください。

メモリーボードとメモリーボードソケットの組み合わせかた

メモリーボードは、この表に従って増設してください。

メモリー実装容量 *	ソケット
128MB	―
256MB	128MB
384MB	256MB

＊ [システムのプロパティ] の [全般] タブで確認できます。ただし、一部をビデオメモリーに使用するために、実際の容量よりも少なく表示されます。

重要

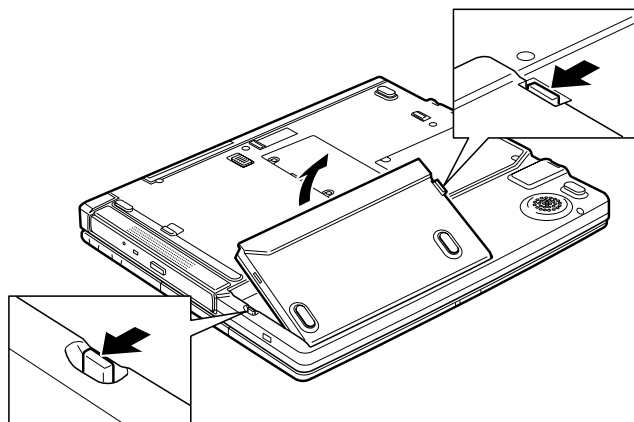
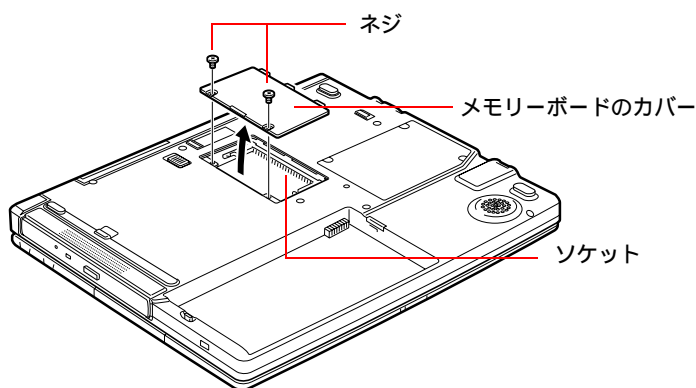
◎ 仕様の異なるメモリーボードを取り付けないでください。正常に動作しない場合があります。

参照

メモリーボードの仕様について→『ハードウェアを使いこなす』4 章の「その他の周辺機器の仕様」

取り付け手順

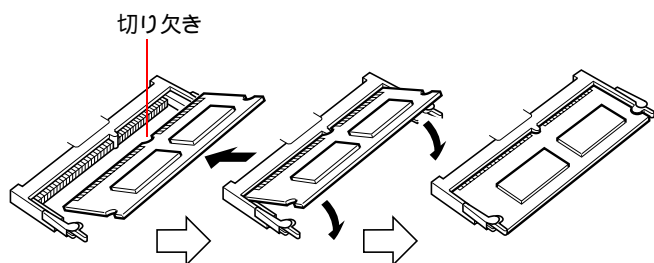
1 **パソコンの電源を切り、AC アダプターをパソコンから取り外してパソコンを裏返す。**

2 **バッテリーロック 2 つを図の方向へスライドさせたまま、バッテリー 1 を取り外す。**

3 **ネジ 2 本を外し、メモリーボードのカバーを取り外す。**

ヒント

★ メモリーを増設する場合に空きソケットがないときは、先に取り付けられているメモリーボードを取り外してください。

参照

取り外す方法について→「取り外し手順」(P.41)

4 メモリーボードの切り欠きがソケットに合うようにしっかりセットする。

5 カバーを取り付け、ネジを締める。

6 バッテリー１を取り付ける。

◎ メモリーボードは確実にロックしてください。メモリーが正しく増設されません。また、パソコン誤動作の原因となります。なお、誤った取り付け方をしたために発生した破損などについての修理は有償となります。あらかじめご了承ください。

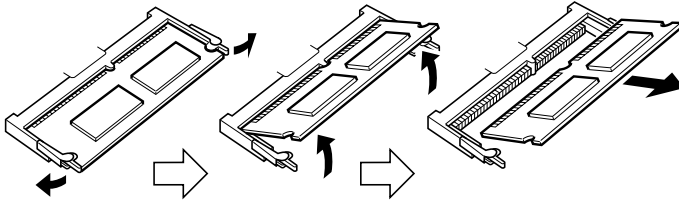
参照

バッテリーパックの取り付けについて→１章の「パソコンを接続しよう」(P.21)

取り外し手順

メモリーボードの取り外し手順を説明します。

1 **取り付け手順 1 ～ 3 を行い、メモリーボードのカバーを取り外す。**

2 **ソケットの両端にあるラッチを外側に押し広げ、メモリーボードを取り外す。**

3 **カバーを取り付け、ネジを締める。**

4 章

トラブルを解決するには

この章では、パソコンの電源が正常に入らなくなった状態と対処方法を説明します。

パソコンの電源が入ったものの正常に動かないときは、『使い勝手を良くする』の 5 章「パソコン Q&A 」を参照して対処してください。

電源を入れたときの異常

ビープ音が鳴ったり、エラーメッセージが表示されたら

パソコンの電源を入れたときにビープ音が鳴ったり、エラーメッセージが表示されたときは、次のように対処してください。

ビープ音

鳴る回数	推測される原因	対処方法
電源投入後に短音のビープ音が連続で鳴る。	ハードウェアが異常です。	＊1

エラーメッセージ

エラーメッセージ	推測される原因	対処方法
0200:Failure Fixed Disk 0	HDD が異常です。	＊2
0210:Stuck Key xx	システムを起動する間に連続キー入力がありました。キーを押さずに起動してください。	-
0211:Keyboard error	キーボードが異常です。	＊3
0213:Keyboard locked-Unlock key switch	ハードウェアが異常です。	＊1
0232:Extended RAM Failed at offset:xxxxxxxx	1MB を越えるメモリーテストでエラーが発生しました。メモリースロットにメモリーが正しく接続されているかご確認ください。	＊3
0251:System CMOS checksum bad-Default configuration used	セットアップ情報が正しくありません。	＊2
0260:System timer error	タイマー回路が異常です。	＊1
0270:Real time clock error 0271:Check date and time settings	セットアップ情報が正しくありません。	＊2
0280:Previous boot incomplete-Default configuration used	システムが起動する前に電源が切られました。[F1] キーを押してシステムを立ち上げてください。	-
02B0:Diskette drive A error	FDD が異常です。	＊3
02D0:System cache error-Cache disabled	キャッシュメモリが異常です。	＊1

エラーメッセージ	推測される原因	対処方法
Keyboard controller error	キーボードコントローラーが異常です。	＊3
Operating System not found	OS が見つかりません。FD、もしくは HD に正しく OS がインストールされているかご確認ください。	-

＊1:お買い求め先にご連絡ください。
＊2:「BIOS の設定」を参照し、セットアップメニューを正しい情報に設定してください。それでもエラーになるときは、お買い求め先にご連絡ください。
＊3:正しく接続されているかご確認ください。それでもエラーになるときは、お買い求め先にご連絡ください

表のエラーメッセージ以外にも、電源を入れたときに次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。このときは、以下のように対処してください。

```
Press <F1> to resume, <F2> to Setup
```

[F2] キーを押し、セットアップメニューでシステムのセットアップを行います。
[F1] キーを押すと、システムが立ち上がります。

このほかのメッセージが表示されたときは、一度電源を切り、セットアップメニューの内容を確認の上、システムを立ち上げ直してください。それでも直らないときは、お買い求め先にご連絡ください。一度電源を切ったときは、10 秒以上たってから、電源を入れてください。
再び電源を入れたときにエラーが表示されなくても、同一エラーが頻繁に再現する場合には、お買い求め先にご連絡ください。

こんな状態の時は

ここでは、パソコンや周辺機器などが正しく動作しなくなった状態とその対処方法をまとめてあります。それ以外のトラブルについては、電子マニュアル『使い勝手を良くする』の5章「パソコンQ&A」にもまとめています。次の対処方法や「パソコンQ&A」で説明している対処方法を行っても症状が改善されないときは、お問い合わせ先にお問い合わせください。

参照
お問い合わせ先について→「お問い合わせ先」(P.3)

パソコン

Q
パソコンが異常に熱い、煙が出た、異臭がする

A
万一異常が発生した場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、感電、火災の原因になります。また、すぐに電源プラグを抜けるように、コンセントの周りには物を置かないでください。お問い合わせ先にご連絡ください。

Q
操作していないのに、カリカリと音がする

A
Windowsには、一定時間操作しないとき、ハードディスクを最適な状態にするプログラムを自動的に起動させる機能があります。いつも操作しているときと同じ程度の音が聞こえても、心配はありません。
あまりにも大きな音がしたり、音がしだいに大きくなっていくような場合は、すぐに電源を切り、購入店かお問い合わせ先にご連絡ください。

Q
Windowsのセットアップの途中で電源を切ってしまった

A
1分程度待ってから電源を入れ直し、最初からセットアップを行ってください。

Q
ハードウェアの検出中に画面が動かなくなってしまった

A
ハードウェアの検出には、数分から十数分かかることがあります。あわてて電源を切らず、しばらく待ってください。
10数分以上待っても画面が変わらないときは、電源スイッチを4秒以上押して電源を切ります。1分程度待ってから電源を入れ直し、セットアップを行ってください。

Q

パソコンに飲み物をこぼしてしまった

A

すぐに Windows を終了し、電源を切ってください。やわらかな布などで拭きとり、水分が十分に乾いてからご使用ください。キーボードやマウスに飲み物をこぼした場合も、同様にしてください。そのあと、お問い合わせ先にご連絡ください。

Q

スタンバイ状態からもとに戻らない

A

アプリケーションや周辺機器がスタンバイ機能に対応していません。いったん電源を切ってから、スタンバイ機能をオフにしてお使いください。

参照
スタンバイ状態からの復帰について
→『使い勝手を良くする』1 章の「節電状態から復帰する」

ディスプレイ

Q

ディスプレイに何も表示されない

A

・ディスプレイのコントラストが暗くなりすぎていませんか？
(外付けディスプレイのみ)
・ディスプレイの明るさが暗くなりすぎていませんか？
・外付けディスプレイのみの表示になっているかも知れません。[Fn] ＋ [F5] キーで表示を切り替えてください。
・節電状態になっていませんか？　節電状態から復帰するには、キーを押したり、マウスを操作してください。それでも復帰しないときは、スタンバイ状態になっています。電源スイッチを押して復帰してください。
・バッテリーを電源として使用しているときに消灯しましたか？　バッテリーの残量がなくなりシステムスタンバイ状態になっています。AC アダプターを接続してからパソコンを復帰させてください。
・AC コードや AC アダプターが、パソコンに正しく接続されていますか？
・AC コードは AC100V のコンセントに接続してありますか？

Q

表示される画像が乱れる (外付けディスプレイのみ)

A

・パソコンの周囲に、電源の入っている精密機器を置いていませんか？
・パソコンの使用中に、パソコンやディスプレイの位置を変えていませんか？
ディスプレイに地磁気の影響や色ムラが発生することがあります。一度電源を切り、30 分以上時間をおいてから再びご使用ください。

Q

ディスプレイの表示が読めない、または歪んでいる (外付けディスプレイのみ)

A

リフレッシュレートの設定がディスプレイの仕様を超えていませんか？

Q

カーソルだけが表示される

A

原因が特定できません。お問い合わせください。

Q

何も表示されず、ビープ音が 2 回以上鳴る

A

故障の可能性があります。お問い合わせください。

Q

電源が切れているのに、何か表示されている

A

故障の可能性があります。お問い合わせください。

マウス、ポインティングパッド

Q

マウスカーソルが動かない

A

・マウスケーブルが正しく接続されていますか？　接続し直す場合は、一度パソコンの電源を切ってからマウスケーブルを接続してください。
・MS-DOS モードまたは、Safe モードで立ち上げていませんか？
MS-DOS モードまたは Safe モードで立ち上げると、マウスが動かなくなることがあります。キーボードのキーで操作するか、パソコンを立ち上げ直して、通常のモードでお使いください。
・Windows か、実行中のアプリケーションに何らかの異常が発生しているかもしれません。次のようにして、異常が発生していると思われるプログラムを終了してください。
(Windows XP の場合)
[Ctrl] キーと [Alt] キーを押しながら、同時に [Delete] キーを押します。[Windows タスクマネジャー] が開きます。異常が発生していると思われるプログラムを選び、[タスクの終了] ボタンをクリックします。
(Windows 2000 の場合)
[Ctrl] キーと [Alt] キーを押しながら、同時に [Delete] キーを押します。[Windows のセキュリティ] が開くので、[タスクマネジャー] ボタンをクリックします。[Windows タスクマネジャー] が開きます。異常が発生していると思われるプログラムを選び、[タスクの終了] ボタンをクリッ クします。
(Windows 98 の場合)
[Ctrl] キーと [Alt] キーを押しながら、同時に [Delete] キーを押します。[プログラムの強制終了] が開きます。異常が発生していると思われるプログラムを選び、[終了] ボタンをクリックします。
・そのまま、しばらく待ってください。アプリケーションの動作中、通信中や印刷中にもマウスが動かないことがあります。

Q

マウスカーソルが動かしたい方に動かず、突然移動する

A

・AC 電源に問題があるかもしれません。系統の違う AC コンセントに変更するか、ノイズフィルター付き ＯＡ タップをご使用ください。
・周囲または体が静電気を帯びているかもしれません。静電気を取り除いてからご使用ください。

参照

マウスケーブルの接続について→ 1 章の「接続しよう」(P.20)

◎ **[プログラムの強制終了] で強制終了した場合、直前の作業内容は保存されていません。**

サウンド

Q
内蔵スピーカから音が鳴らない
A
・ スピーカボリュームが最小になっていませんか？スピーカボリュームが最小になっていると、Windows のボリュームコントロールの音量設定、ミュートの設定にかかわらず、音が鳴りません。

キーボード

Q
キーを押しても入力できない
・ [Num Lock] キーを押します。[Num Lock] キーが押されていないと、テンキーで数字の入力ができません。
・ 大容量のデータのコピー中であったり、ダイアログボックスを開いてマウスで設定している場合は、一時的にキーボードからの入力を受け付けなくなります。

Q
正しい文字入力ができない
A
・ キーボードを正しく設定します。(Windows XP、Windows2000 の場合)
1 [コントロールパネル] の [キーボード] アイコンをダブルクリックして開き、[ハードウェア] タブをクリックします。
2 [デバイス] が次のように設定されているか確認します。
・109 キーボードの場合 :「日本語 PS/2 キーボード (106/109 キー) 」
3 違っていた場合は [トラブルシューティング] ボタンをクリックし、メッセージに従って対応するキーボードを選びます。
4 メッセージに従ってパソコンを再立ち上げすると、キーボードの種類が変更され、入力できるようになります。

・ キーボードを正しく設定します。(Windows 98 の場合)
1 [コントロールパネル] の [システム] アイコンをダブルクリックして開き、[デバイスマネージャ] タブをクリックします。
2 リストの [キーボード] に次のように表示されているか確認します。
・109 キーボードの場合 :「 106 日本語 (A01) キーボード (Ctrl ＋英数) 」
3 違っていた場合はプロパティーを開き、[ドライバ] タブで [ドライバの更新] ボタンをクリックして [デバイスドライバの更新ウィザード] を立ち上げ、対応するキーボードを選びます。
4 メッセージに従ってパソコンを再立ち上げすると、キーボードの種類が変更され、入力できるようになります。

電源

Q

電源スイッチを入れたが、電源が入らない

A

・AC アダプター、電源コード（AC コード）が、正しく接続されていますか？
・AC アダプターのコネクターが接触不良を起こしていませんか？
・コンセントは正常に通電していますか？　ほかの電源が必要な器具を接続してご確認ください。
・バッテリーを使用している場合、バッテリーが正しく接続されていますか？
・バッテリーを使用している場合、バッテリー残量は十分にありますか？
・AC アダプター、バッテリーを一旦外し常温でしばらく放置後、再度取付けて電源スイッチを押してください。

Q

電源スイッチを入れたら、「Non-System disk 〜」と表示されてパソコンが立ち上がらない

A

前回のパソコンの使用中にセットした FD が、FDD に入れたままになっていませんか？
FD を抜いたあと、[Enter] キーを押してください。

Q

エラーメッセージが表示された

A

・エラーメッセージの内容をご確認ください。
・BIOS メニューの設定に問題があるかもしれません。BIOS メニューを開いて、ご購入時の状態に戻してください。
・ディスプレイ、プリンターなどの周辺機器を正しく接続していますか？

参照

エラーメッセージについて→→「電源を入れたときの異常」（P.44）

参照

詳しくは→『Windows を使えるようにする』3 章の「BIOS の設定を戻す」

システムの動作がおかしい

Q

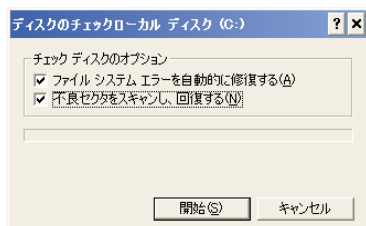
Windows が立ち上がらない

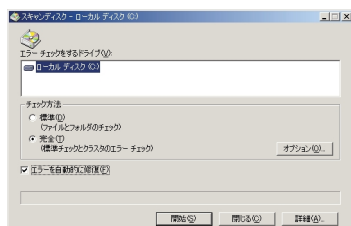
A

・外付けフロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っていないか確認します。
・Windows が破損していないかを確認します。再セットアップ用の FD から立ち上げてみます。立ち上がれば HDD 中の Windows が破損している可能性があります。
・セーフモードで立ち上げ、チェックディスクを実行します。
（Windows XP、Windows 2000 の場合）
1 パソコンの電源を入れ、起動画面が表示されたらすぐに、アラーム音が鳴るまで [F8] キーを押す。
2「セーフモード」を選択し、[Enter] キーを押す。
3「Microsoft Windows XP Professional」を選択し、[Enter] キーを押す。（Windows XP のみ）
4 ユーザーを選択しログオンすると、セーフモードで起動するメッセージが表示されるので、[はい] ボタンをクリックする。
5 [スタート] ボタン－ [マイコンピュータ] を選択する。

ヒント

★ Windows 2000 では操作の一部がことなります。

6 [ローカルディスク（C：）] アイコンを右クリックして、[プロパティ] をクリックする。
7 [ツール] タブをクリックし、[エラーチェック] の [チェックする] ボタンをクリックする。
8 [ファイルシステムエラーを自動的に修復する] と [不良セクタをスキャンし、回復する] をチェックし、[開始] ボタンをクリックする。チェックディスクが開始され、終了すると結果レポートが表示される。

9 [OK] ボタンをクリックする。
10 Windows を立ち上げ直す。

・Safeモードで立ち上げ、スキャンディスクを実行します。(Windows 98の場合)
1 パソコンの電源を入れ、起動メニューが表示されるまで[Ctrl]キーを押す。
2「3.Safe mode」を選択し、[Enter] キーを押す。
3 Windows が立ち上がると自動的に [ヘルプとサポート] 画面が表示される。
4 [閉じる] ボタンをクリックする。
5 [マイコンピュータ] の「(C:)」を右クリックし、メニューから [プロパティ] を選ぶ。
6 [ツール] タブの [チェックする] ボタンをクリックする。
7 [エラーチェックをするドライブ] で「(C:)」、[チェック方法] で [完全] を選択し、[エラーを自動的に修復] をチェックし、[開始] ボタンをクリックする。スキャンディスクが開始され、終了すると結果レポートが表示される。

8 [閉じる] ボタンをクリックする。
9 Windows を再立ち上げする。

・FD から立ち上げている場合は、その FD が Windows 立ち上げ用の FD であるか、FDD に正しくセットされているかご確認ください。

Q

Windows やアプリケーションが終了できない

A

・アプリケーションを強制終了させます。
(Windows XP、Windows 2000 の場合)
アプリケーションを立ち上げている場合は、タスクバーを右ボタンでクリックし、ショートカットメニューの [タスクマネージャ] をクリックします。[アプリケーション] タブをクリックし、終了させたいアプリケーションを選び、[タスクの終了] ボタンをクリックします。そのあと、[タスクマネージャ] を [×] ボタンで終了します。

参照

再セットアップについて→『Windows を使えるようにする』の 3 章「ご購入時の状態に戻すには」

（Windows 98 の場合）
[Ctrl] キーと [Alt] キーを押したまま [Delete] キーを押し、[プログラムの強制終了] から終了させるプログラムを選び、[終了] ボタンをクリックします。そのあと表示されるダイアログボックスの終了ボタンをもう一度クリックします。Windows を立ち上げ直します。

A

・ パソコンを強制終了させます。
（Windows XP の場合）
タスクバーを右ボタンでクリックし、ショートカットメニューの [タスクマネージャ] から「シャットダウン」ボタンをクリックし、Windows を終了します。それでも立ち上げ直すことができない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切ります。

（Windows 2000 の場合）
[Ctrl] キーと [Alt] キーを押したまま [Delete] キーを押し、[Windows のセキュリティ] から「シャットダウン」ボタンをクリックします。それでも立ち上げ直すことができない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切ります。

（Windows 98 の場合）
[Ctrl] キーと [Alt] キーを押したまま [Delete] キーを押します。[プログラムの強制終了] が表示されたらもう一度、[Ctrl] キーと [Alt] キーを押したまま [Delete] キーを押します。Windows を立ち上げ直します。
それでも立ち上げ直すことができない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切ります。
・ フロッピーディスクから Windows が立ち上がらないときは、フロッピーディスクがドライブに正しくセットされているか、また本 OS 用の起動ディスクかどうか、ご確認ください。
・ Windows を再セットアップします。

Q

立ち上げ時、ピーといって立ち上がらない

A

・ キーボードの上に物が乗っています。物を取り除いてください。
・ キーを押しつづけています。キーから手を離してください。

Q

キーボードなどを操作しても画面の表示が変わらない

A

・ アプリケーションを強制終了させます。
（Windows 2000 の場合）
アプリケーションを立ち上げている場合は、タスクバーを右ボタンでクリックし、ショートカットメニューの [タスクマネージャ] をクリックします。[アプリケーション] タブをクリックし、終了させたいアプリケーションを選び、[タスクの終了] ボタンをクリックします。そのあと、[タスクマネージャ] を [×] ボタンで終了します。

（Windows 98 の場合）
[Ctrl] キーと [Alt] キーを押したまま [Delete] キーを押し、[プログラムの強制終了] から終了させるプログラムを選び、[終了] ボタンをクリックします。そのあと表示されるダイアログボックスの終了ボタンをもう一度クリックします。Windows を立ち上げ直します。

・ パソコンを強制終了させます。
（Windows XP の場合）
タスクバーを右ボタンでクリックし、ショートカットメニューの [タスクマ

ネージャ] から「シャットダウン」ボタンをクリックし、Windows を終了します。それでも立ち上げ直すことができない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切ります。
(Windows 2000 の場合)
[Ctrl] キーと [Alt] キーを押したまま [Delete] キーを押し、【Windows のセキュリティ] から「シャットダウン」ボタンをクリックします。それでも立ち上げ直すことができない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切ります。
(Windows 98 の場合)
[Ctrl] キーと [Alt] キーを押したまま [Delete] キーを押します。[プログラムの強制終了] が表示されたらもう一度、[Ctrl] キーと [Alt] キーを押したまま [Delete] キーを押します。Windows を立ち上げ直します。
それでも立ち上げ直すことができない場合は、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切ります。

・ドライブ C のファイルを削除して空き容量を増やします。
・メモリーを増やします。
・決まったアプリケーションを使用しているときに起きるときは、そのアプリケーションを削除し、再インストールします。
・ハードディスクを修復します。
　1 [スタート] ボタン－ [マイコンピュータ] を選択する。
　2 [ローカルディスク (C:)] アイコンを右クリックして、[プロパティ] をクリックする。
　3 [ツール] タブをクリックし、[エラーチェック] の [チェックする] ボタンをクリックする。
　4 [開始] ボタンをクリックする。スキャンディスクが開始され、終了すると結果レポートが表示される。(Windows XP と Windows 2000 の場合)
　5 [OK] ボタンを 2 回クリックする。

ヒント
★ Windows 98 では手順 4 の操作が異なります。

Q
電源を入れたら「ドライブのエラーをチェックしています」と表示された
A
ドライブのエラーをチェックするためにスキャンディスクが立ち上がっています。数分で終了するので、終了するまではパソコンを操作したり、電源を切ったりせずにそのまま待ちます。

Q
Windows を立ち上げるたびにスキャンディスク (チェックディスク) が実行される
A
・ドライブのエラーが修復されないまま残っています。スキャンディスクを実行してエラーを修復します。
　1 [スタート] ボタン－ [マイコンピュータ] を選択する。
　2 [ローカルディスク (C:)] アイコンを右クリックして、[プロパティ] をクリックする。
　3 [ツール] タブをクリックし、[エラーチェック] の [チェックする] ボタンをクリックする。
　4 [開始] ボタンをクリックする。スキャンディスクが開始され、終了すると結果レポートが表示される。(Windows XP と Windows 2000 の場合)
　5 [閉じる] ボタンを 2 回クリックする。

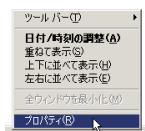
ヒント
★ Windows 98 では手順 4 の操作が異なります。

・付属や市販のコンピューターウィルスソフトでウィルスチェックします。
・Windows を再セットアップします。
・パソコンを修理に出します。

参照
再セットアップについて→『Windows を使えるようにする』の 3 章「ご購入時の状態に戻すには」

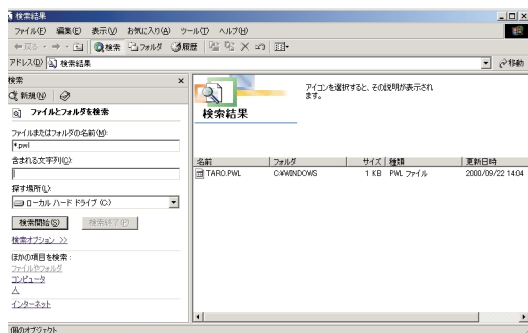
Q
「システムリソースエラー」が表示される（Windows 98 の場合）
A

・デスクトップの壁紙を「なし」にしてシステムリソースを増やします。
1 デスクトップのアイコンのないところを右クリックし、［ プロパティ ］を選択する。［ 画面のプロパティ ］が表示される。
2 ［ 背景 ］タブをクリックする。
3 ［ なし ］をクリックする。
4 [OK] ボタンをクリックする。

・スタートアップフォルダーにあるプログラムの中で、不要なものを削除します。
1 タスクバーのアイコンのないところを右クリックし、［ プロパティ ］を選択する。［ タスクバーのプロパティ ］が表示される。

2 ［［ スタート ］メニューの設定 ］タブをクリックし、［ 詳細 ］ボタンをクリックする。［ スタートメニュー ］が表示される。
3 「プログラム」の［ ＋ ］をクリックし、「スタートアップ」をクリックする。
4 「スタートアップ」フォルダー内のショートカットを選択し、[Delete] キーを押し、確認のメッセージで［ はい ］ボタンをクリックする。

・Windows を再立ち上げして作業エリアを開放します。
・使用していないアプリケーションを終了して作業エリアを増やします。

Q
Windows のパスワードを忘れてしまった（Windows 98 の場合）
A

自分のパスワード設定ファイルを削除します。
1 Windows 立ち上げ時のパスワード入力画面で [Esc] キーを押す。
2 エクスプローラを起動し、［(C:)］を右クリックし、［ 検索 ］を選択する。
3 ［ ファイルまたはフォルダの名前 ］に「 *.pwl 」を入力し、［ 検索開始 ］ボタンをクリックする。
4 自分の名前が付いた pwl ファイルを選択し、[Delete] キーを押し、［ はい］ボタンをクリックする。

5 Windows を立ち上げ直す。

◎ **Windows XP、Windows 2000 では、Windows の再セットアップが必要になります。パスワードを忘れないようにしてください。**

Q

コマンドプロンプト（MS-DOS プロンプト）画面が全画面表示になってしまった

A

[Alt] キーを押したまま [Enter] キーを押します。

アクセスランプ

Q

ランプが点灯したままになっている

A

・HDD が壊れていませんか？ [スキャンディスク ([チェックディスク])] を実行して HDD にエラーがないかチェックしてください。[スキャンディスク ([チェックディスク])] は、ディスクのプロパティーで [ツール] タブの [チェックする] ボタンをクリックすると立ち上がります。
・実行しようとしたアプリケーションが壊れていませんか？ 別のアプリケーションを実行してみてください。

BIOS メニュー

Q

BIOS メニューの設定を変更したら、正しく動作しなくなった

A

BIOS メニューの設定値を出荷時の状態に戻します。増設した PC カードがある場合は取り外し、BIOS メニューで [F9] キーを押し、設定値を出荷時の状態に戻します。

参照
詳しくは→『Windows を使えるようにする』3 章の「BIOS の設定を戻す」

Q

セットアップの実行エラーが表示される

A

パソコン内部に設置されているリチウム電池が消耗しています。お問い合わせの上、リチウム電池の交換を依頼してください。お客様自身で交換することはできません。なお、リチウム電池を取り外すと、メモリーに入っている BIOS メニューで設定した情報が消えます。設定内容はあらかじめ控えておいてください。

参照
お問い合わせ先→「お問い合わせ先」(P.3)

時計

Q

時計が遅れるときは（リチウム電池の交換）

A

- パソコンのリチウム電池が消耗すると、パソコンの時計が遅れたり、BIOS メニューの設定が正しく表示されなくなります。また、「セットアップの実行エラー」が繰り返し表示されたり、「CMOS Checksum Error」などと表示されます。このようなときは、リチウム電池を交換する必要があります。
- 寿命で交換する場合はお問い合わせ先までご連絡ください。お客様自身で交換できません。なお、リチウム電池を取り外すとメモリーに入っている BIOS メニューで設定した情報が消えます。設定内容はあらかじめ控えておいてください。

ヒント

★「セットアップの実行エラー」は、リチウム電池が正しく接続されていない場合にも表示されます。

参照

リチウム電池の寿命について→「有寿命部品」(P.62)

電子マニュアル

Q

電子マニュアルが立ち上がらない

A

『活用百科』CD の [install] フォルダーの中の [ar505jpn.exe] をダブルクリックし、Acrobat Reader をインストールします。

Q

画像が表示されず、グレーのボックスになる

A

[ファイル] ー [環境設定] ー [一般] をクリックし、[データ量の多い画像を表示] にチェックマークを付けます。

Q

Acrobat Reader がインストールできない

A

ご使用中のソフトウエアによっては、インストールできないことがあります。この場合は、そのソフトウエアをアンインストールしてから Acrobat Reader をインストールします。そのあとで、アンインストールしたソフトウェアをインストールし直します。ソフトウエアをアンインストールしても \Windows\Temp フォルダーに一部のファイルが残ることがあります。このときは、Temp フォルダー内のファイルを削除します。

ソフトウェアのトラブル

Q

アプリケーションが実行できない

A

- このパソコンおよびインストールされているOSで使用できるアプリケーションですか？
- そのアプリケーションの実行に必要なメモリー容量が実装されているか、Windows のバージョンを正式にサポートしているアプリケーションであるかなどをご確認ください。
- どのアプリケーションも正しく実行できなければ、Windows が壊れているかもしれません。フロッピーディスクやその他の媒体に必要なファイルのバックアップを取り、Windows を再セットアップしてください。

参照

Windowsの再セットアップ→『Windowsを使えるようにする』の 3 章「ご購入時の状態に戻すには」

パソコン仕様一覧

形名		220W NS3	
CPU（ヒント 1）		Mobile Intel® Pentium® IIIprocessor-M 1GHz	Mobile Intel® Celeron® processor 1GHz
キャッシュメモリー	1次	32KB(CPU 内蔵)	
	2次	512KB(CPU 内蔵)	256KB（CPU 内蔵）
	キャッシュ有効範囲	メモリー 0 ～ 384MB	
RAM	メインメモリー (ヒント 1、2)	128 ～ 384MB（SDRAM）	
	最大メインメモリー	384MB	
	ビデオメモリー (ヒント 9)	最大 32MB(メインメモリーが 128MB の場合) 最大 48MB(メインメモリーが 256MB 以上の場合)	
ROM		BIOS　1024KB（Flash ROM）	
ディスプレイ		12.1 型 TFT	
表示能力	半角	8 × 19 ドット、80 桁× 25 行	
	全角	16 × 19 ドット、40 桁× 25 行	
グラフィック (ヒント 3)	640 × 480 ドット時	256 色／ 65536 色／ 1677 万色	
	800 × 600 ドット時	256 色／ 65536 色／ 1677 万色	
	1024 × 768 ドット時	256 色／ 65536 色／ 1677 万色	
HDD(ヒント 1、4)		20GB、40GB	
マルチパーパスベイ (ヒント 1)		なし (ウェイトセーバー) ／ CD-ROM ／ CD-R/RW ／ DVD-ROM&CD-R/RW	
カレンダー時計 (重要 1)		年月日、時分秒を刻時、刻時誤差± 180 秒／月	
スピーカー		1個　モノラル	
バックライト		冷陰極蛍光灯　1灯	
キーボード		87 キー	
ポインティングパッド		静電式ポインティングパッド	
バッテリー		バッテリー 1(内蔵) バッテリー 2(増設)	
インタフェースコネクター	プリンター	1 個　IEEE1284 準拠、SPP（双方向／ ECP）	
	マイク	1 個　適合インピーダンス 2.2kΩ(Typ.)	
	ヘッドホン	1 個　適合インピーダンス 8 ～ 32Ω(Typ.)	
	IEEE1394（S400）	1 個（4 ﾋﾟﾝ）	
	USB	2 個 許容電流　500mA 以下 / 個	
	モデム	なし／ 1 個：DATA 最大 56kbps（V.90）	
	LAN	1 個 IEEE802.3 規格準拠、100BASE-TX/10BASE-T、 オートネゴシエーション機能	
	ディスプレイ	1 個 VESA/DDC1/2B 準拠	
無線 LAN（ヒント 1）		なし IEEE802.11b(Ch1 ～ Ch14)	
PC カードスロット		1個　Type Ⅰ、Ⅱ JEITA Ver 4.2/PCMCIA 2.1 準拠	

形名		220W NS3	
電源	周波数	50/60Hz	
	入力電圧	AC100V ± 10%	
消費電力 (ヒント 5)	定常	約 21W	約 21W
	最大	58W	58W
	スタンバイ時 (ディープスリープモード時)	約 1.0W	約 1.0W
	電源 OFF 時	約 0.8W	約 0.8W
省エネ法に基づく表示	区分	S	
	エネルギー消費効率 (ヒント 6)	0.00043	0.00043
外形寸法 (ヒント 7)		282mm(W) × 239mm(D) × 25.4mm(H)	
質量（ヒント 8)		約 1.63kg	
周囲温度	動作時 (重要 2)	5 ～ 35 ℃	
	非動作時	－ 10 ～ 43 ℃	
	保存および輸送時	－ 10 ～ 60 ℃	
周囲湿度	動作時 (重要 2)	20 ～ 80%Rh(結露しないこと)	
	非動作時	20 ～ 80%Rh(結露しないこと)	
	保存および輸送時	20 ～ 80%Rh(結露しないこと)	
	最大湿球温度	25 ℃	

ヒント

★ 1：購入時の選択により異なります。

★ 2：Windows の｢システムのプロパティ｣でメモリー容量を確認すると、実際の容量より小さく見えることがあります。

★ 3：液晶ディスプレイでは、1677 万色はディザリング表示になります。
Windows XP では、65536 色は中 (16 ビット)、1677 万色は最高 (32 ビット) です。
Windows 2000 、Windows 98 では、65536 色は High Color(16 ビット)、1677 万色は TrueColor(32 ビット) です。
Windows XP では、256 色および 640 × 480 ドットは使用できません。

★ 4：電源を切ると、HDD のヘッドは自動的に退避ゾーンに移動します。HDD の容量は、$1GB=10^9$ バイトで計算した場合の数値を表しています。

★ 5：パソコンを使用しないときは、電源を切り、AC アダプターのプラグをコンセントから抜かれることをおすすめします。待機時の消費電力を低減できます。

★ 6：エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定により測定された消費電力を、省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

★ 7：厚さ (H) は最薄部の値です。

★ 8：バッテリ 1、ウェイトセーバー、128MB メモリを実装し、無線 LAN、モデムを未実装状態の質量です。

★ 9：PC の動作状態に応じてビデオメモリーの容量が自動的に変化します。ビデオメモリー容量の手動変更はできません。

重要

◎ 刻時誤差は、リアルタイムクロックの数値です。Windows の時間とずれることがあります。

◎ 長時間の非動作時から動作させる場合は、周囲の温度や湿度になじむまで時間を置いてから起動してください。

◎ モデム、無線 LAN は日本国内専用です。

◎ 無線 LAN および Bluetooh は同じ 2.4GHz 帯を使用しています。同時使用はできません。

◎ パソコンの液晶ディスプレイ部 (バックライト) には重金属 (水銀) が使用されています。内部のサブユニット (基板、ドライブなど) には重金属 (鉛) が使用されています。

◎ 内蔵無線 LAN および Bluetooth™ は日本の電波法に基づいて設計しています。海外で使用すると罰せられる場合があります。

◎ 内蔵モデムの通信速度 56kbps は、データ受信時の理論上の最大値です。

◎ 内蔵無線LANは128bit暗号をサポートしています。40/60bit暗号と128bit暗号を設定可能です。

参照

メモリーボードの詳細について→ 3 章の「メモリーボードとメモリーボードソケットの組み合わせかた」(P.38)

ヒント

★ KB と kB 記載の単位
K(大文字):1024
k(小文字):1000
で換算しています。

有寿命部品

パソコンの部品は、長期間使用しているうちに劣化、磨耗します。次の部品は、一定周期で交換してください。これらは有償です。購入については、お買い求め先にご連絡ください。
なお、交換した部品は、パソコン購入時の部品と仕様が異なる場合があります。

品 名	備 考
ハードディスクユニット	*1
CD-ROM ドライブ	*3
CD-R/RW ドライブ	
DVD-ROM&CD-R/RW マルチドライブ	
液晶表示装置	*1、4
キーボード	*1
マウス	*2
ファン	*1
AC アダプター	*1
バッテリーパック	*5
リチウム電池	*6

＊1：事務室で1日に約8時間、1カ月で25日間、通常に使用すると想定した場合、寿命は約5年です。したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。更に、1日8時間以上、連続で通電した場合は、いちじるしく寿命が短くなります。
＊2：事務室で1日に約8時間、1カ月で25日間、通常に使用すると想定し、定期的にクリーニングして、清潔に保った場合、寿命は5年です。したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。
＊3：事務室で1日に約8時間、1カ月で25日間、データを読み込むと想定した場合、寿命は約5年です。したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。
＊4：明るさが工場出荷時の約1/2に低下したときを寿命とします。
＊5：寿命は約250サイクルです。または、通常の事務環境で過充電せず定期的に完全放電した場合は、約1年以内です。過充電したり、負担のかかる使い方をすると、寿命は短くなります。
＊6：事務室で1日に8時間、1カ月で25日間、通常に使用すると想定した場合、寿命は5年です。リチウム電池はパソコンが無通電状態の時に内蔵時計などに電力を供給しています。したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は長くなります。使用しない場合でも定期的に通電されることをおすすめします。

重要

◎ **有寿命部品については、3年間無償保証の対象外です。**

⚠注意

◎ **アルミ電解コンデンサーについて：このパソコンやACアダプターに使用されているアルミ電解コンデンサーは有寿命部品です。設計寿命は、週5日8時間使用で約5年です。寿命になると、電解液の漏れや枯渇が生じます。特にACアダプターでの電解液の漏れは、発煙の原因になることがあります。これらの危険を避けるために、設計寿命を超えて使用する場合は、有寿命部品単位で交換してください。また、業務用など昼夜連続運転相当では5年より寿命は短くなります。**

アフターケアについて

ここでは、このパソコンを購入されたあとに受けられるアフターケアについて説明します。

保証書について

保証書は大切に保管しておいてください。
保証期間中に万一故障した場合は、保証書の記載内容に基づいて無料で修理いたします。
詳しくは保証書をご覧ください。
保証期間終了後の修理については、お問い合わせ先にご相談ください。

保守サービスについて

保守サービスをお受けになる際は、お問い合わせ先にご相談ください。
詳細については「サポート＆サービスのご案内」をご覧ください。

保守部品について

パソコン用保守部品の保有期間は製造終了後6年です。
対象は、HITACHI FLORA シリーズ（マウス含む）とします。
周辺機器については、それらの取扱説明書をご参照ください。

さくいん

他社製品の登録商標および商標についてのお知らせ
このマニュアルにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティー契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約に基づき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。
それ以外の場合は該当ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。
・ENERGYSTAR はアメリカ合衆国環境保護庁の登録商標です。
・Microsoft、MS-DOS、Windows は、米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
・Intel、Pentium、Celeron は Intel Corporation の登録商標です。
・その他、各会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

パソコンを準備する
ー電源を入れるまでー
初 版　2002 年 5 月

株式会社　日立製作所
インターネットプラットフォーム事業部
〒 243-0435 神奈川県海老名市下今泉 810 番地

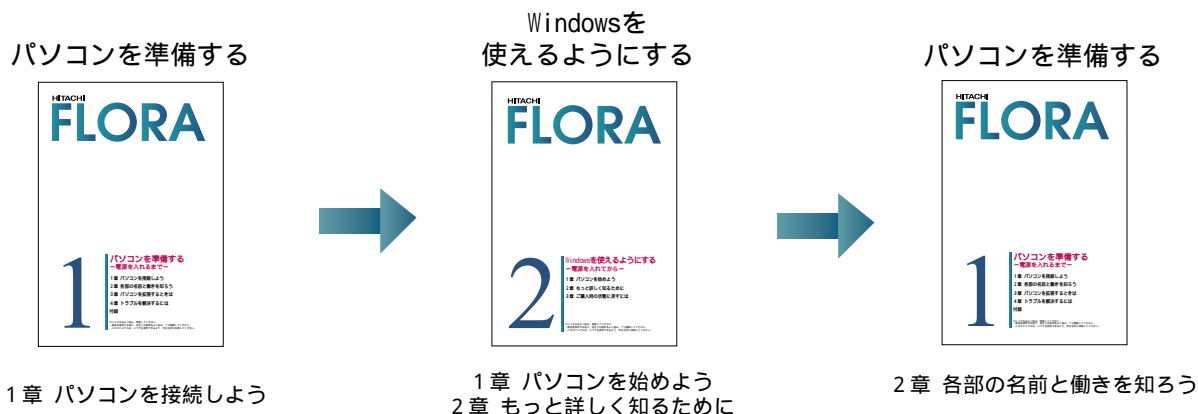
このマニュアルは、再生紙を使用しています。

NS0301000-1

マニュアルの使い方

はじめてパソコンを使うときは

パソコンを準備する　　Windowsを使えるようにする　　パソコンを準備する

1章 パソコンを接続しよう　　1章 パソコンを始めよう / 2章 もっと詳しく知るために　　2章 各部の名前と働きを知ろう

はじめてパソコンを使うときは、マニュアルの各章を→の順に読みながらパソコンを操作しましょう。
使いながら、パソコンとWindowsの基本的な操作を学ぶことができます。

電子マニュアルを見るには

Windowsを使えるようにする

2章
もっと詳しく知るために

困ったときは

パソコンを準備する　　使い勝手を良くする（電子マニュアル）　　Windowsを使えるようにする

4章 トラブルを解決するには　　5章 パソコンQ&A　　3章 ご購入時の状態に戻すには

パソコンの調子がおかしいときは、マニュアルの各章を→の順に読むことをお勧めします。
パソコンをご購入時の状態に戻す必要があるときは、さらに→の順にお読みください。

NS0301000-1